

三陸沿岸の津波石碑

－その2．三陸地区－

－その3．大船渡地区－

－その4．陸前高田地区－

卯花政孝*

凡例

1. 石碑の調査対象は、津波に関するものとした。
2. 対象地域の全体の分布図、碑の所在地の詳細図を付した。
3. 石碑の寸法には台座は含まない。
4. 碑文の不明文字・難読文字については、該当文字を■■■で表示した。
5. 掲載の石碑のカラー写真、御希望の方御連絡下さい。

〒980 仙台市青葉区荒巻字青葉

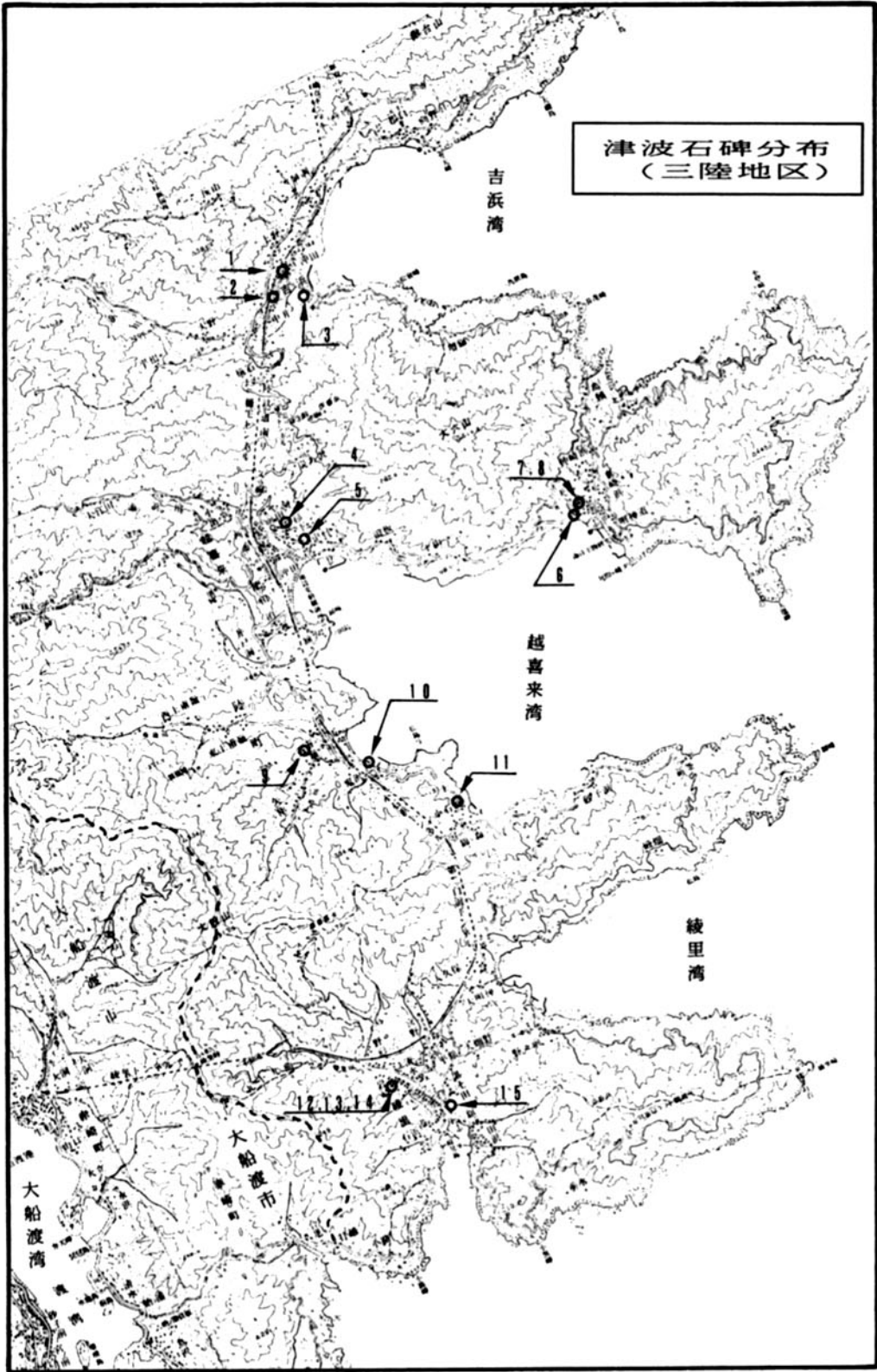
東北大学工学部土木工学科河川研究室

TEL 022-222-1800 内4582

FAX 022-268-3689

*東北大学 工学部土木工学科

津波石碑分布
(三陸地区)



岩手県気仙郡三陸町吉浜

- | | | | |
|-------|-----|-----|----------|
| サ ン ー | 1 | 字上野 | 正寿院 |
| | ー 2 | 字中井 | 橋本理容店裏 |
| | ー 3 | | キッピンセンター |





高 1 6 9 cm
 横 4 5 cm
 厚 4 5 cm

サ ン ー 2

津浪記念碑

- 一 昭和八年三月三日午前二時半大地震
 昭和八年三月三日午前三時 大津浪
- 一 大地震の後には津浪が来る
 一 俄に潮が引いたら警鐘を打て
- 一 警鐘を聞いたら避難せよ
 一 三四年経ては津浪が来ると思へ

東京朝日新聞社寄贈



サ ン ー 3

高 1 3 1 cm
 横 1 2 0 cm
 厚 3 0 cm

水田復舊整理記

是比吉濱村字中通元邸宅田園也
 明治廿九年爲三陸大海嘯人與家
 屋死亡破摧田圃亦悉荒蕪或爲松
 林或爲艸野焉以本村乏水田今村
 長柏崎亞太郎君頗憂之欲開墾荒
 地復舊態其面積十二町水路八百
 餘間屢申請官衙得許可今年正當
 大海嘯卅三年困之組織川原耕地
 整理組合々々員十五名柏崎君爲
 其會長其工費四萬餘圓借用政府
 低利資金一萬五千圓又更受國庫
 及縣補助金一萬五千圓以大正十
 五年十二月廿五日起工豫期昭和
 六年五月卅日竣工矣組合長柏崎
 君欲錄事實于貞珉傳將來請文千
 余々嘉其美舉諾之爰爾

昭和三年六月 及川梅堂撰文

石工 立根村

金野万三 作



嗚呼

慘哉

海嘯

夫人之歿世悲哀之最者無大於災死者也明治廿九年六月十五日我三陸之大海嘯古今系見其災變也是日正當陰曆端午家々團樂謠舞和樂至午後八時怒濤澎湃我々來襲忽而溺沒人畜瀉盡財產其害所及南北殆亘一百里越喜來村爲中心矣其被害之町村沈沒波底數生靈漂溺不還空爲海中鬼終天吞憾極若楚嗚呼蒼天禍國民何夫酷哉桑田變爲海家屋爲曠野寐無衣食無粟遺族叫號餓殍相望親子兄弟媼翁夫妻忽異幽冥鬼哭啾啾々々叫千尋之海底屍體累々岸上無日不燒屍遺民爲鰥寡爲孤獨者號泣於昊天悲鳴於海濱數日尚不知飽其慘憤實不可言也被勇將猛士斃身于千軍萬馬之中殞命于硝煙彈雨之間者其死也誠雖可悲元是赴義殉國之而不朽之名譽垂萬世其身雖沒有不沒者其骨雖朽有不朽者嗚呼這回海嘯其至不測之災者非所戰死之可比也嗟誰無父乎誰無子乎父死而無葬之子子死而無哭之父子父子夫婦兄弟姊妹同斃非命也今而想之餘恨綿々千歲不盡千萬人中偶存餘生者喘々得維一縷之命矣奉上優渥 天恩之仁恤下以萬衆之義捐漸次就業得安堵焉獨於千海嘯死者何日得至樂土彼岸乎嗚呼思去思來洵不堪血淚夫薄德之人終天壽而免沈淪生死海也況於此逆境之死者乎其煩悶苦惱素非人智所可量知也今茲遭被害三周之忌辰越喜來村浦濱青年共同會員追悼部落數十戶慘死之男女百貳拾餘名之靈喜捨淨財建碑於此地會員及川菊三郎來請文千余謂恐其年月彌久口碑湮沒也余應需叙梗概其冠以禪師篆額者蓋冀追福傳子悠遠也 銘曰
 慘哉海嘯 沒老漂少 家屋流亡 天地悲叫 怒濤澎湃 震地軸壞 人畜沈淪 淚充世界
 欲修善利 有志卜地 追慕勳碑 以出離 辭乎群靈 修福智冥 共登覺路 永輝滄溟

■■■■維持明治三十一戊戌歲六月中浦■■■■

洞雲二十世文山和嘯誌

高 270 cm
横 125 cm
厚 19 cm



| 氏名 | 高 | 横 | 厚 | 備考 |
|-------|-----|-----|-----|--------|
| 佐川金作 | 八二才 | 八二才 | 三才 | 今野トメ |
| 水野ユキ | 八一才 | 八一才 | 二八才 | 鈴木キリエ |
| 同 タカ | 五八才 | 五八才 | 一〇才 | 同 ヒロ子 |
| 同 沢セン | 七六才 | 七六才 | 七才 | 同 正雄 |
| 遠藤エイ | 七〇才 | 七〇才 | 一才 | 同行夫 |
| 小林清吉 | 六九才 | 六九才 | 二一才 | 加藤シガ |
| 高橋金左門 | 四五才 | 四五才 | 四才 | 同 ミチエ |
| 同 金治 | 三才 | 三才 | 二才 | 同 多喜 |
| 及川オキサ | 四五才 | 四五才 | 二〇才 | 佐藤マサ |
| 同 シン子 | 二一才 | 二一才 | 六才 | 村上マキ |
| 同 キリ子 | 一才 | 一才 | 四才 | 川谷松夫 |
| 菅原宇三郎 | 四一才 | 四一才 | 四才 | 梅原林太右 |
| 同 正子 | 二九才 | 二九才 | 年不詳 | 江刺の人 |
| 同 道子 | 九才 | 九才 | 一才 | 姓名不明 |
| 同 男嬰兒 | 二才 | 二才 | 一才 | 以上二十八柱 |

供養 墓石

津波記念

- 一 大地震の後には津浪が来る
- 一 地震があったら高い所へ集まれ
- 一 津浪に追はれたら何処でも此所位の高い処へ上れ
- 一 遠くへ逃げては津浪に追付かる
- 一 近くの高い所を用意して置け
- 一 縣指定の住宅適地より低い所へ家を建てるな

昭和八年三月三日午前三時半大津浪が襲
来して甚大な被害を与え、遂には二十八柱
の御魂を海底に沈めた。村当局は明治二十九
年の津浪と度重なる罹災に鑑み津浪に関する
教訓を後世に伝えるべく碑の建立を計画したが、
事情によりその実現をみないま。今日に至った。
現今、防災に関する施策の著しいものがある
はいえ、不測の天災について常に備えのある
ことを念願すると共に、受難者二十八柱の御名
を刻して五十回忌の法要を営み、区民一同茲
に供養碑を建立する次第である。

昭和五十七年三月三日

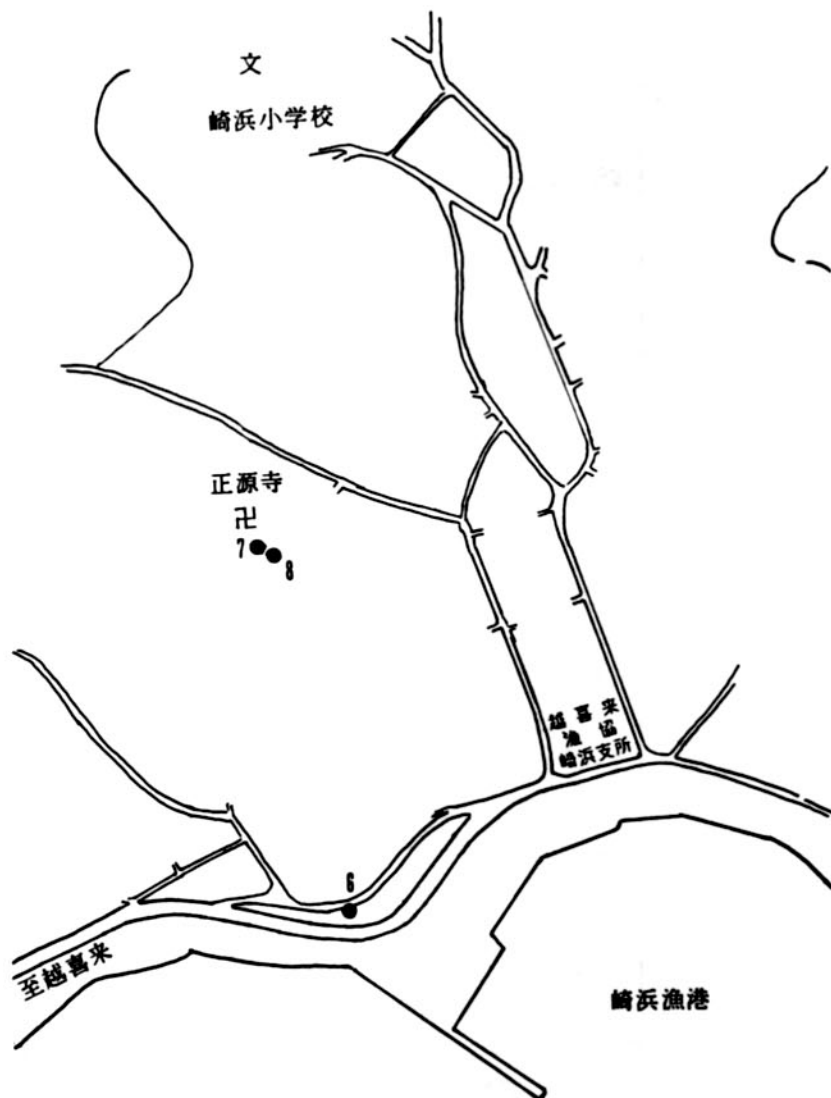
施主 供養碑建立実行委員会
協賛 越喜來漁業協同組合

浦浜泊部分林組合・地区民一同
及川忠之丞 書・施工 及川耕民

岩手県気仙郡三陸町越喜来字崎浜

サン ー 6
ー 7, 8

県道脇
正源寺





高 2 1 2 cm
横 1 2 5 cm
厚 1 5 cm



津浪記念碑

東京朝日新聞社寄贈

たかしのあとかへりみて
いそしまは名におふ村に
家もさかえむ

昭和十年三月三日

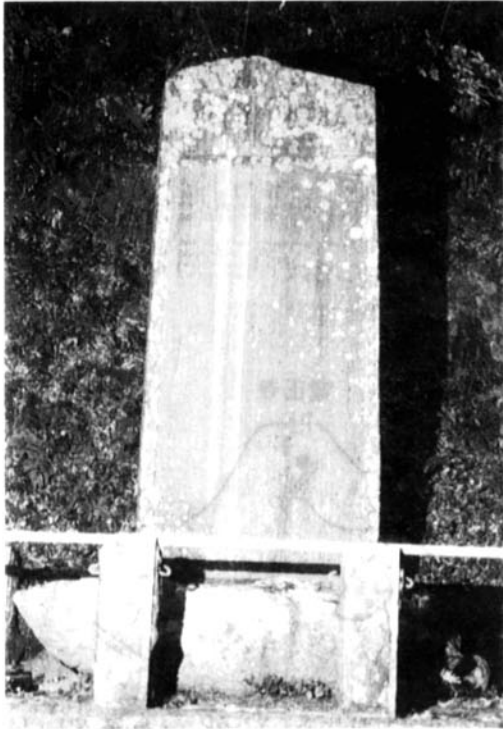
越喜来村長從七位勲七等

石川敏藏

新渡戸仙岳書

石巻市石井敬三郎刻

長く大きくゆれる地震は
津浪の警報と心得
直ちに近くの高地へ避ける
一時間位はその場を離れるな



高 233 cm
横 102 cm
厚 20 cm

サン 7

天變地異無世不有然其原因或可知或不可知者可以人智避之不可知者則其害甚大而最可怖矣我三陸沿岸古來數被海嘯之害是以財傷生者不貲焉昭和八年三月三日味與巨浪一發轟然起海中破天地之寂寞故老雖昔聞其音響今猶存其底恐怖不知所措直欲驚人而逃避賦而怒濟排天如萬馬奔騰如天漢落下繞而壞家屋流人畜其慘狀不堪醜鼻崎濱浦濱泊雨嶺等其害尤多流矢破壞之家屋百四十四死者八十七於崎濱觀之則被害家屋四十九死者五十田圃荒廢數十町步其慘害全賴運數萬圓其他漁船漂流堤防破壞畜流失通計之將及百萬其慘害可知也噫天變地異之可怖固不可以言語也白濱山正源寺十二世添雲老師不忍見其慘狀頃與有志者謀欲建碑記之以慰其靈真可謂美舉矣然則此舉也不啻慰其靈後人讀此碑者知其可怖深講究其原因盡智力避其害得救後人則其功不亦大乎介人請予文余亦嘗視其慘狀不堪同感不可以文而辭乃叙其梗概係以銘曰

海若怒號 狂瀾冲天 人畜無數 沒入深淵
神恫鬼哭 我淚如泉 氣集氣散 死生玄玄
天壽一如 曷悲因緣 滄海萬里 好個墓田

昭和十年一月 從六位勲六等
龍澤良吉撰



高 258 cm
横 70 cm
厚 23 cm

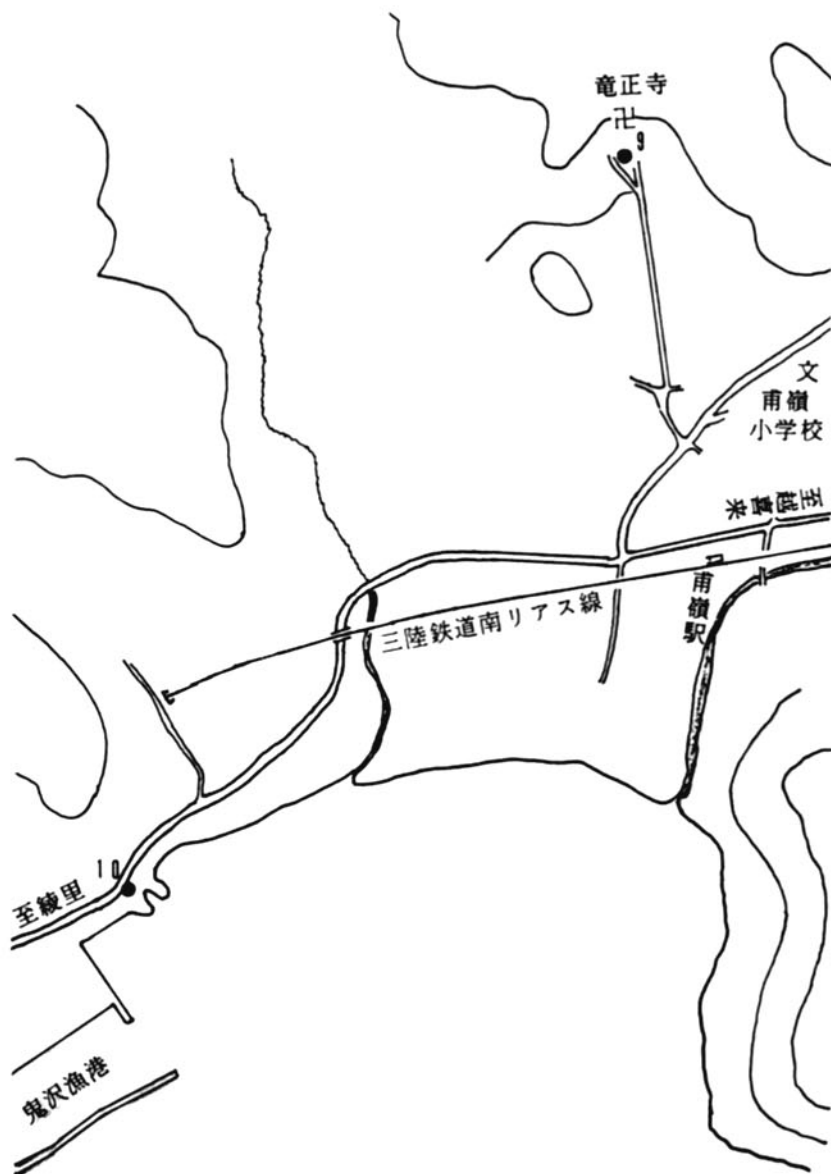
サン 8

海嘯溺死者供養碑

明治廿九年陰曆五月五日 崎濱念佛女講中
明治三十年陰曆十月十一日建之
當濱死人男女二百二十四人無縁三十七人
願主 川畑里能

岩手県気仙郡三陸町越喜来

サン一 9 字甫嶺 龍晶寺
一 1 0 字鬼沢 県道脇





高 2 2 3 cm
 横 9 7 cm
 厚 2 2 cm

海嘯溺死記念碑

明治二十九年陰曆五月五日 溺死

明治三十五年陰曆四月建之

上下浦嶺
 泊 部落一同



高 206 cm
横 91 cm
厚 15 cm

サ ン ー 1 0

津浪記念碑

たかしほのあとかへりみて
いそしまは名におふ村に
家もさかえむ

昭和十年三月三日

越喜来村長從七位勲七等

石川敏藏
新渡戸仙岳書

東京朝日新聞社寄贈

昭和八年三月三日震災海嘯概況

三月三日陰曆二月八日午前二時三十一分

波浪高サ 三十尺

流失戸数 十八戸

半潰戸数 四戸

浸水戸数 二戸

死亡人員 七名

行衛不明 二名

死亡者人名
矢作銀之助

斎藤源七

川原キク

及川シケ

及川トメ

同典一

斎藤ナミ

同トミ

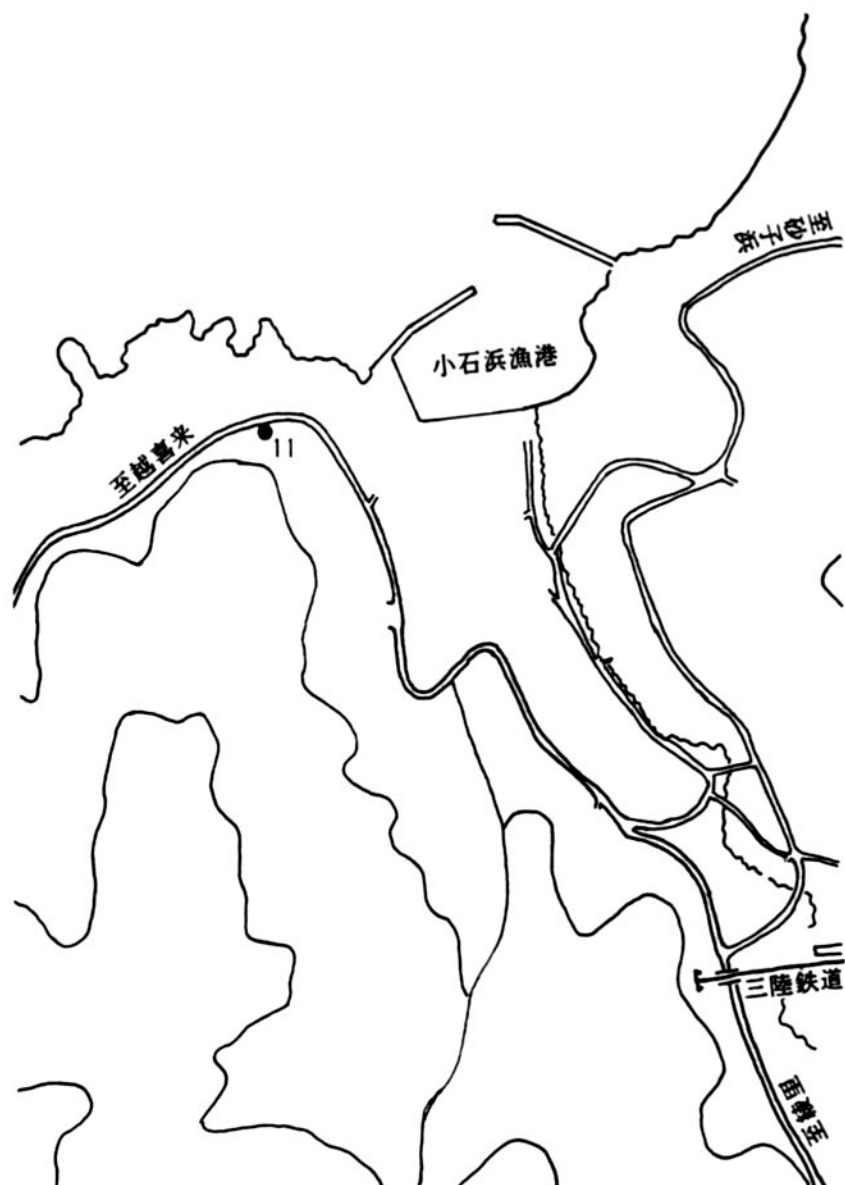
同サキ

外 小山善治

岩手県気仙郡三陸町綾里字小石浜

サ ン ー 1 1

県道脇





高 210 cm
横 102 cm
厚 17 cm

サシ一 1 1

萬 死 之 靈

回顧明治廿九年六月拾五日古今未
曾有之大海嘯ニ而我三万之同胞ハ
無辜而化海底藻屑又財產蕩盡殆以
千萬金數寔東海三陸之地ハ瞬時而
彌瀾之化樓所死者永ク苦厄之間ニ
多恨ノ鬼ト成リ生者尚失六親眷族
哀傷無措生涯多涙ノ人ヲ不脱嗚何
此無限怨不忘悲何日乎消哉生靈之
在出外勸國益内舉家道其功績今尚
等芳シ生靈ノ德偉也ト可謂唯惜吳
天無情天命不仮今ヤ幽明遠隔途又
不能見只怨天訴地其不常ニ哭己生
靈逝也天為メニ玄ク草木為メニ衰
ヒ鳥鳴為メニ哀シ吁々
明治卅年七月建之

溺 死 者 之 靈

佐々木龜吉松川市七者る古よ榮藏松川与ん
佐々寅吉満つゝ楚免よ子と佐々木治三郎み和
喜美古満春み川原巳之松かねみかの瀧田長七
富右衛門佐藤作治ま左兵治榮治佐藤きよ奈み
喜乃細谷者奈龜次郎具り市治古んき久
細谷喜十郎川原鶴松ふ久傳七ネ左勇三郎おと
登具下田留藏いと善吉奈川みん留五郎登免
市之助幸七五助新沼奈か富藏隆助千田つぎ
新沼楚与かつ豊佐々木登よ忠吉世つりと
門之助忠之助美よ志佐々木庄三郎富寄古満ん
あ左の由き今野善之助新沼寅三喜乃

記

其年七月四日畏クモ勅使東園侍從殿下之忝慰問
亦三崎治局長之受慰問赤十字社員及軍医加治正之
一行及川榮ノ救護アリ

本村死亡者一千五百人負傷八十二人流失家屋
二百戸無害百五十戸存生一千五百二十人
本郡死亡者七千四十人流失家屋一千六十四戸
被害區域八戸港金華山

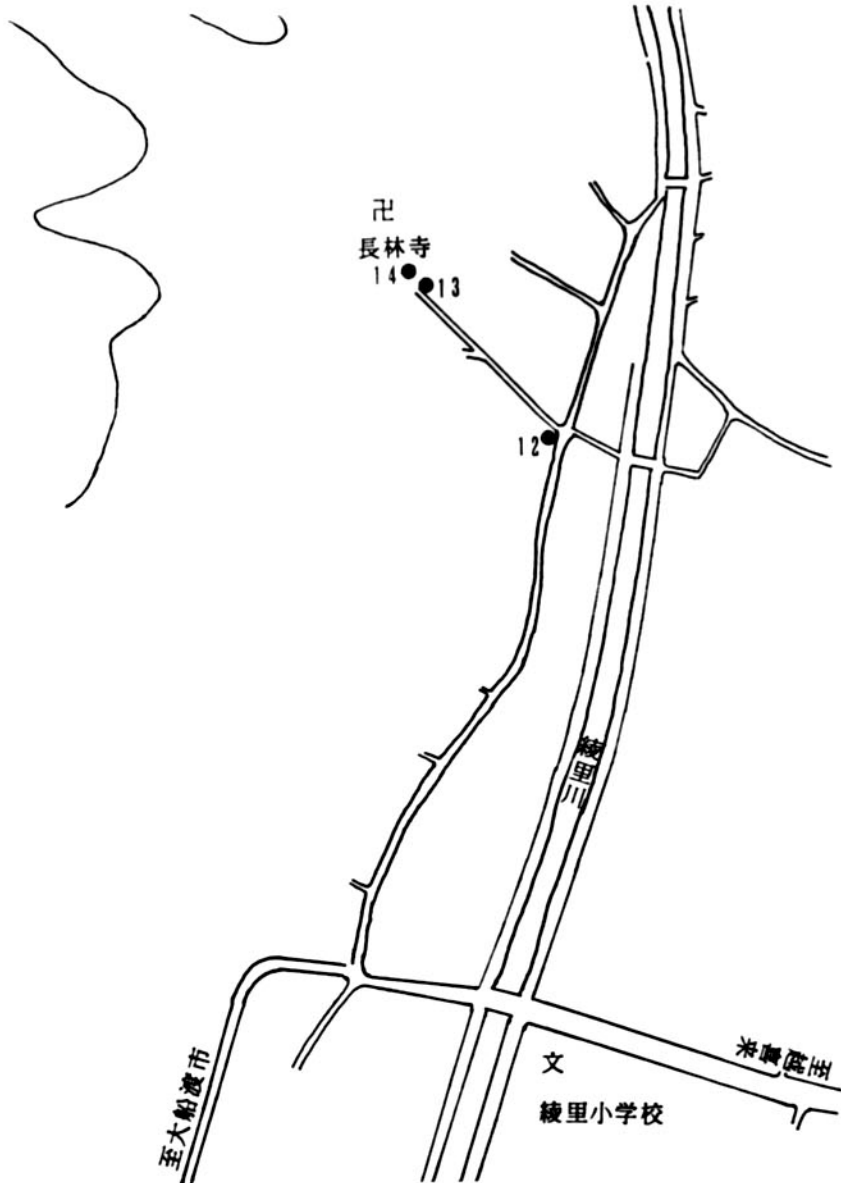
事

建 立 者

松川徳松同大藏佐々木長治同榮次郎瀧田清治千田繁藏
佐々木直治瀧田長藏向澤長三郎新沼豊治新沼甚藏
佐藤安五郎山下佐四郎佐々木團治同辰十郎同善治佐々米吉
下田菊藏佐藤常治細谷市五郎同能ん富寄浅治
荒熊福松新沼福三郎川原古満同己之助松川た満
吉話人 佐々木治
刻 永澤専

岩手県気仙郡三陸町綾里字岩崎

サンー 1 2 , 1 3 , 1 4 長林寺





高 184 cm
横 67 cm
厚 29 cm

サシ — 1 2

海嘯溺死者靈

明治二十九年

六月十五日



家

遠祖村上長衛門は本縣江刺郡岩谷堂町の生にして魚賣を業として本郡沿岸に來往せしが本村野之前則ち既往の地の利ありて遂に居を此處にトし商の外漁業を營み以て産を積み家を興し創業の功を成就す第二世善次郎第三世善三郎第四世善五郎第五世善太郎皆能く父祖の遺業を繼承して家政を維持す第六世己之作天資英邁果斷商機を察すこと敏にして成す家産為に富み資財因て裕なり家屋を新築し倉廩等も増築施設するや頗る多く名聲遠近に知らる時に明治廿九年六月十五日午後八時半頃千載記憶を消する能はさるの大惨害三陸沿岸の大海嘯は實に當地中心點にて數十丈の激濤陸を呑む三回該家も不幸にして其狂洶渦中に葬むらる家屋器財と共に家族十有七人流亡し生存せるは獨當第七世己之作のみ惨も亦極まれりと謂つべし昔慶長五年の大海嘯の被害ありと仙台文庫に傳ふ噫夫何曾無情なるや魚宰の民苦しむるの酷なるや之第七世己之作家族の死を悼み且先祖の各靈を吊祭せむと之を石に刻し先考と舊知あり依りて不肖と雖も需に應し之を誌す

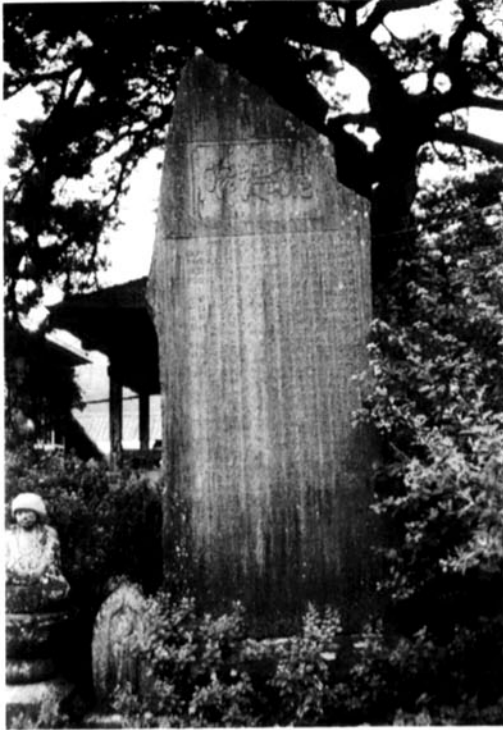
維持明治三十五年壬寅年六月 第七世上己之作建之

伊藤清誌

誼昭

- | | | |
|-----------|--------|------|
| 善良院積徳慶運居士 | 善太郎 | 八拾二歳 |
| 専心妙透大姉 | 後室セン | 七十一歳 |
| 隆興院家運道章居士 | 己之作 | 五拾二歳 |
| 茂林貞繁大姉 | 室シケ | 五拾一歳 |
| 誠實助信士 | 甚助 | 五拾二歳 |
| 豊室貞纒信女 | 室トヨ | 六拾四歳 |
| 益室妙信大姉 | 陳平マス | 五拾三歳 |
| 總外智光信士 | 甚助男庄助 | 三拾二歳 |
| 一琴妙彈信女 | 己之作女コト | 二拾八歳 |
| 晶遊童子 | スエ男政治 | 拾五歳 |
| 實參童子 | スエ男三平 | 六歳 |
| 自関孩児 | 陳平男長エ門 | 七歳 |
| 俊英嬰子 | スエ二男長平 | 三歳 |
| 脱空禪男 | 履龜三郎 | 卅一歳 |
| 指道禪男 | 履八重蔵 | 卅五歳 |
| 悟了禪男 | ■ | ■ |

高 3 4 3 cm
横 1 3 2 cm
厚 2 2 cm



碑 德 頌

氣仙郡綾里長林禪寺第十三世福山味道禪師本年還齡七十有七齒德並高教化行于遠近於是門人子弟相謀欲樹碑頌其德來請文於余余不文固非其選然余與師交且五十年其在中教院同某職曰夕過從成禮誼不可辭也乃叙其經歷大要曰師和賀郡笠間村修驗萬法院永巖三男以天保十三年壬寅十月生弘化丁未得度隨諸高德勤行多年文久壬戌初住黑岩正洞寺尋轉淨光寺染黑寺明治六年遷仙臺泰心院十二年更轉松音寺蕪教導職累進權大講義泰心松音洞上名利住時班仙臺藩著座與輪王寺昌傳庵稱仙臺四大寺總括藩內總務而維新後佛寺失祿多歸荒廢輪王昌傳泰心亦廢焉獨松音行宗務師之住泰心松音住持熊谷達宗老病不能見事舉寺務委囑于師宗風大莖亡幾出仕中教院於是師晝見院務夜掌宗務中教院神佛合併明治七年各自拮据經營卜仙臺中央新築中教院極輪奐之美既而明治九年神佛分離宗徒騷然當此時師住松音百方論之遂得無事師夙勞徒弟教育聘教師開設學舍稱小學林即曹洞宗第二中學林之舊稱也十四年退松音十五年為長林寺住職以至今日升九年有海嘯之變師惻然請以當寺為避難所偶有人費消金錢之事師憫之馳驅周旋使無罪戾給村民有事則請師教解師鞠躬盡瘁亦不辭其勞事微寢焉村民大德之又獎勵蠶業講利用厚生之道現今育蠶者五十餘戶其他因師舉煙者不貽矣綾里為村乏飲料水村民苦之師乃創引水法使寺院民家行之今日飲料水之不乏皆師之賜也方今緇衣幾十萬人讀經衣鉢之外如殖產興業多度外視之師則不然盡於力宗教二育矯正地方陋習誠意解紛糾勉強農桑使民得方

向宜矣村民之視師猶父母所以鄉黨之樹頌德碑者固非偶然也星冰陽作之銘曰

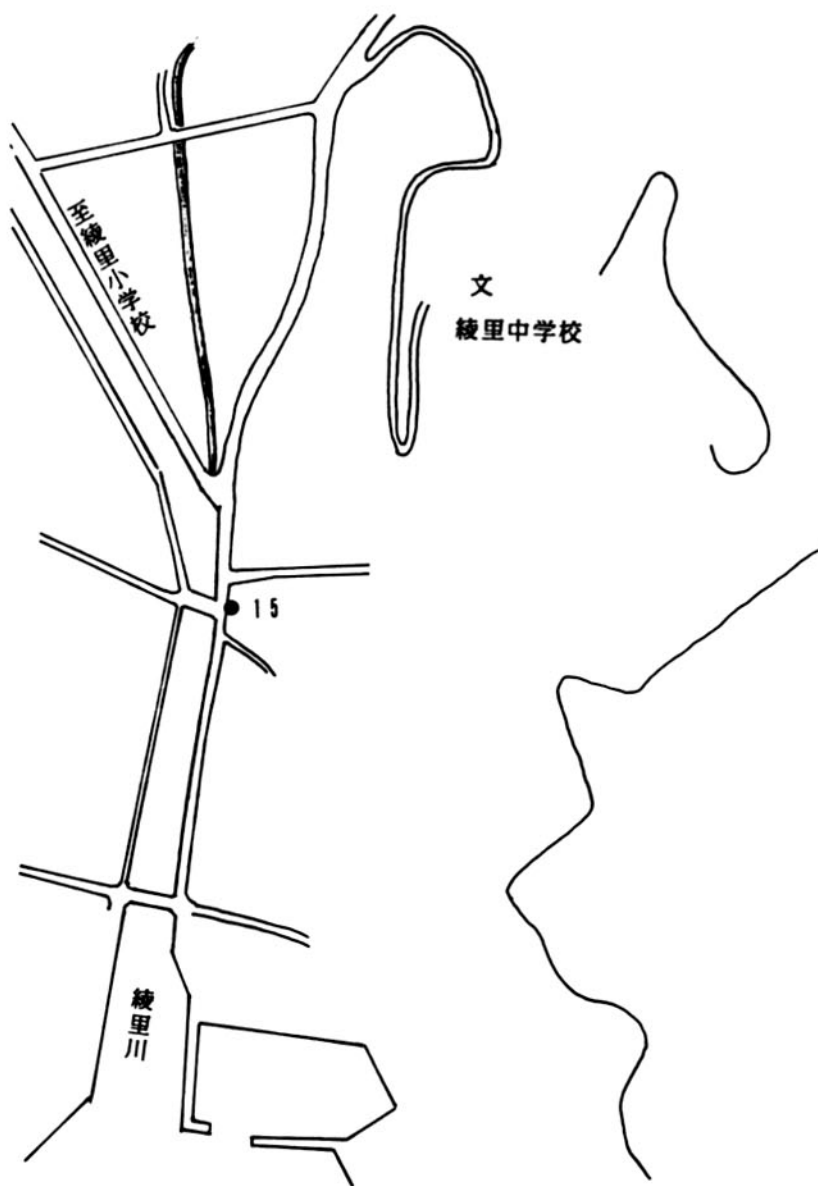
師性寡言 常諧靜綠 學問頗博 道德最堅 內外諸典 皆有師傳 教徒化俗 雨能得全
格物窮理 意一心專 創引水法 大為民便 當仁與義 不憚艱辛 村民蒙惠 其德

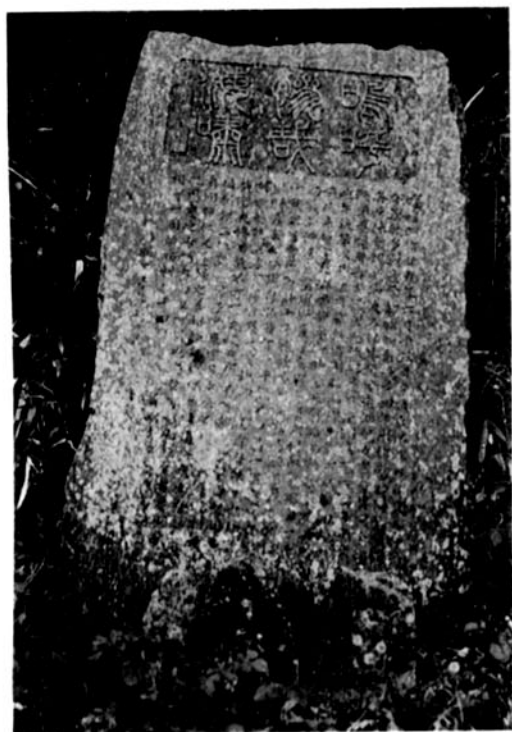
友人 己溪佐々木舜永 撰
導知 冰陽 星 子龍 書

岩手県気仙郡三陸町綾里字館

サンー 1 5

(別荘下)





高 240 cm
 横 115 cm
 厚 22 cm

サ ン ー 1 5

嗚呼

慘哉

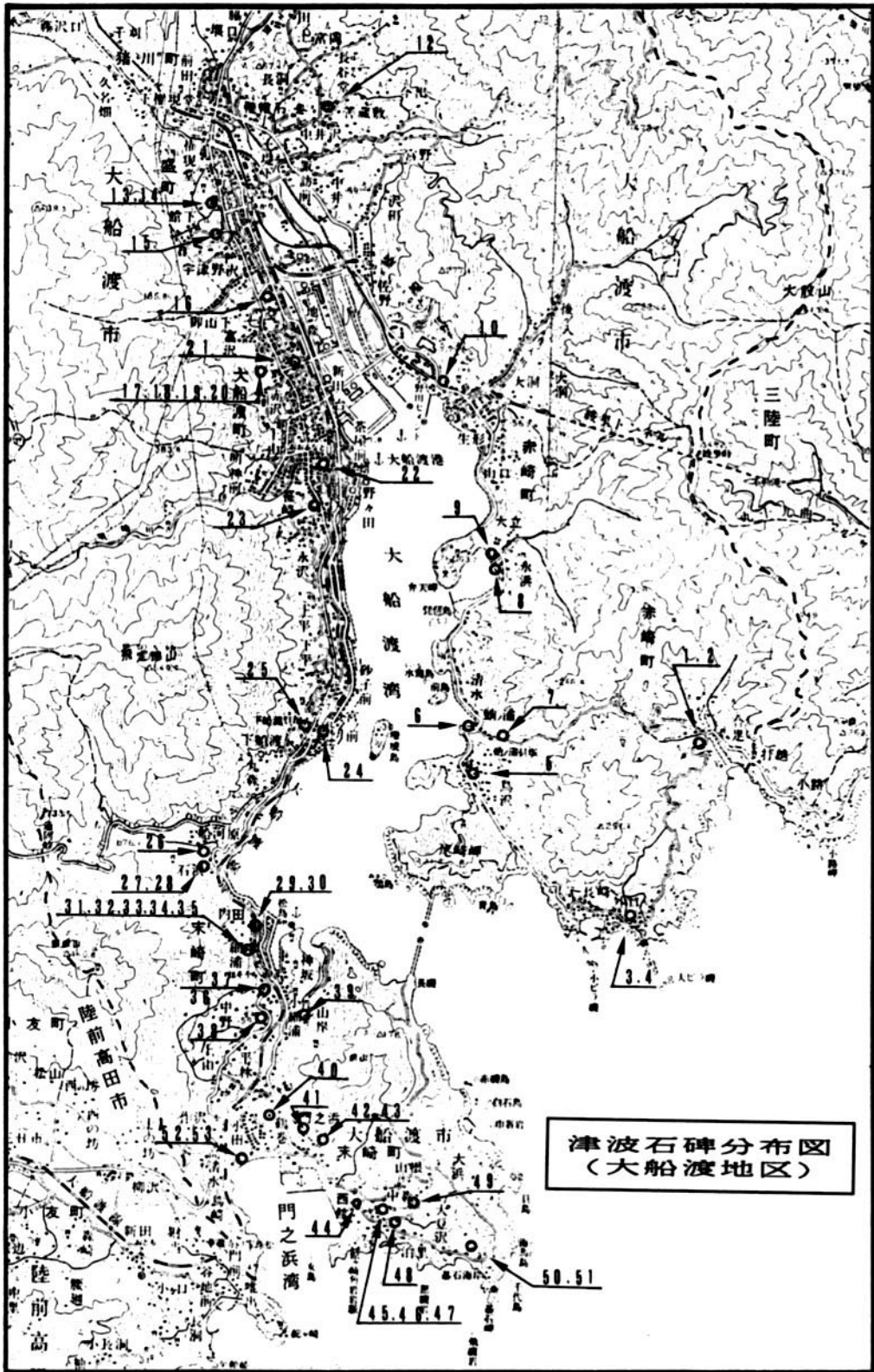
海嘯

嗚呼明治廿九年六月十五日奈哉大不祥日耶我三陸沿海八十里濱殆被五万人
 與幾多財產奪却瞬時矣就中巨想本邨當時慘狀兮同日則以陰曆端午佳節故
 每戶休業親戚知友各訪其類兮老幼兒女聚會其旬兮相互素往而或飲又
 歡樂無疆者古來慣習也然而日乎朝來驟變而日光不昭焉有時雨且微震數
 也午後第八時強轟然怒濤澎湃而作山數百尺耕田陸路忽變而為朝海之是則
 前代未曾有大海嘯哉乎斯時兮天愈暗而難辨咫尺雨益頻而似洗山河激浪三
 而幾許湮沒生靈與財產了矣罹茲災於村內斃死者一千四百人牛馬合計百六
 一頭家屋倉庫等計千十餘棟其他家畜鳥獸亡滅不暇枚舉於愛通歡全邨人口減
 半財產空七分殘存尚雖有一千餘人口其一半喪父母失妻子被害者而凌雨露無
 家衣養殘生無食糧會哀天哭地却恨生存者往々也如斯而豈可能得經營將來危
 哉實天慘酷哉不可言夫伏慙哉不可觀也聖時聖明吾 今上天皇陛下特使
 侍從從三位勲四等子爵東園基愛公派被害地優渥賜恩典恤被存亡哉相踵而
 有同胞仁人慈媼之義捐賴獲殃歿者監追祭殘生者保露命兮可謂二者拔若與乘
 之恩惠也古語云白刃可冒也飲食可無也此不可忘也夫惟謂之歟方令龍次丁酉
 相會一周歲而村長千田豊次氏為首唱者建一碑為紀念之爾云哉矣

維持明三十年秋季白靈祭日

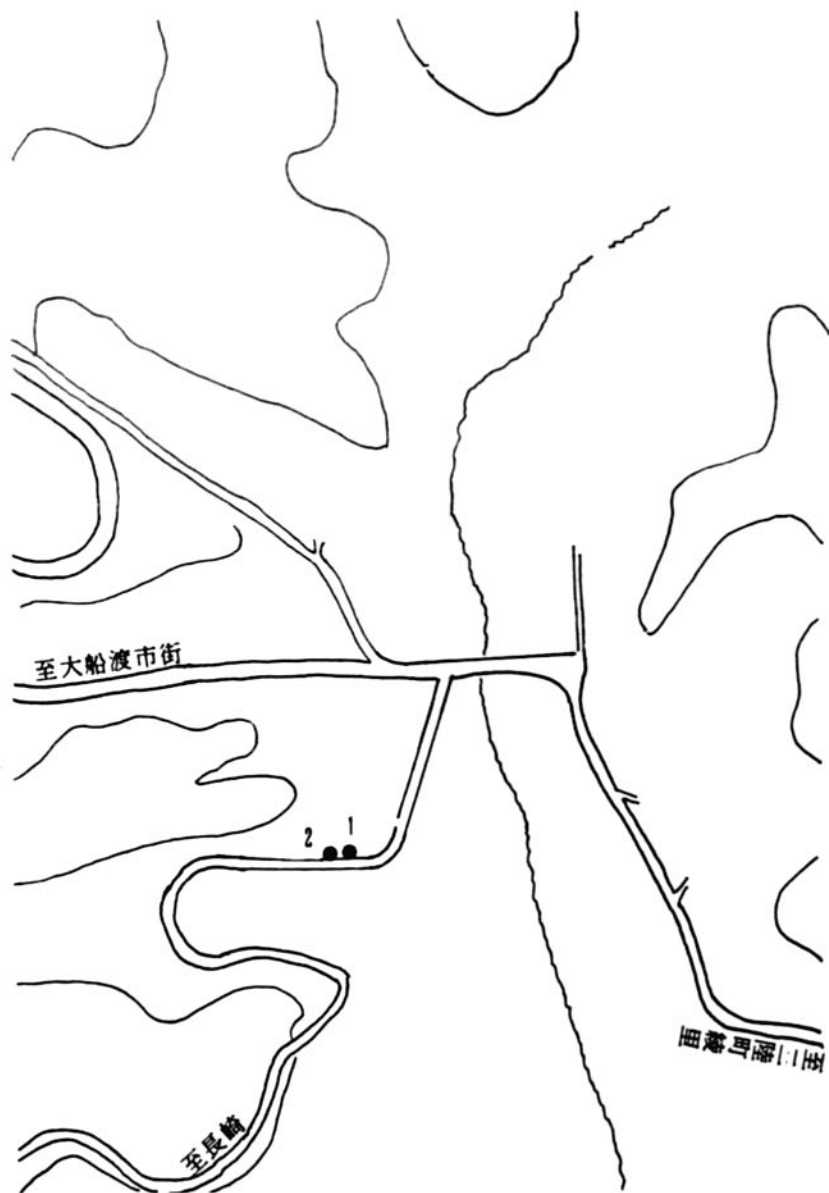
現董長林十三世福山味道布納結

熊谷長圖敬書



岩手県大船渡市赤崎町字合足

オフー 1, 2 県道脇





高 140 cm
横 100 cm
厚 12 cm

オ フ ー 1

津 波 記 念 碑

昭和八年三月三日合足部落 溺死者 二〇名
被害戸數 一一戸

地震があつたら津波の用心

昭和十年三月 建之

赤崎村



高 161 cm
横 83 cm
厚 17 cm

オ フ ー 2

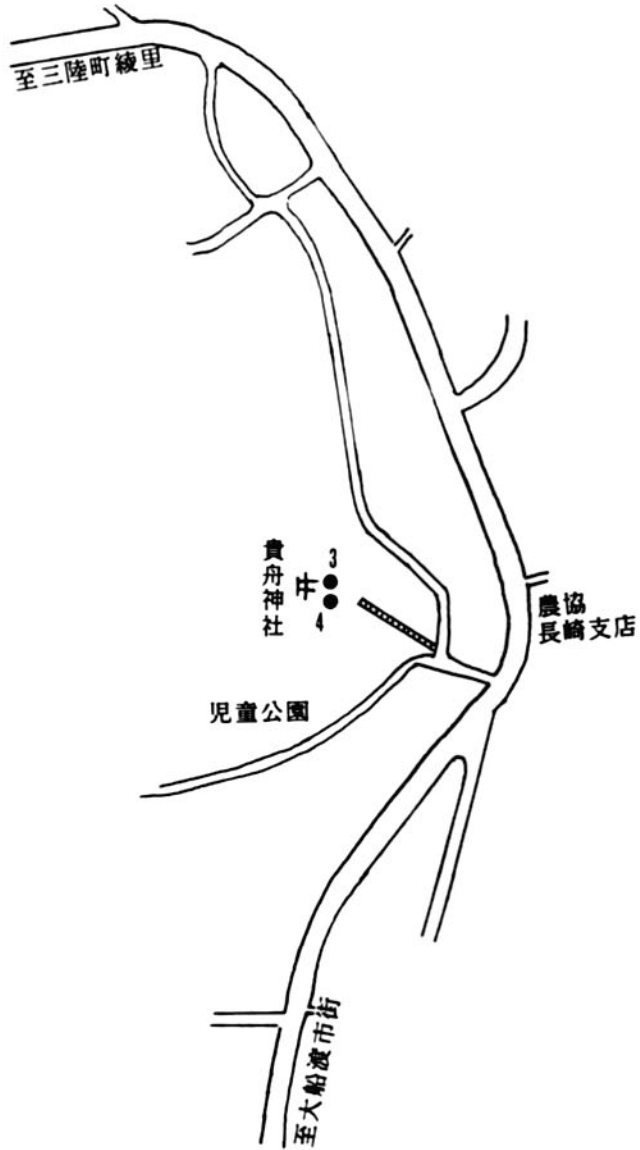
○ 海嘯横上死者諸精霊塔

明治二十九年五月五日

八十名 死亡

岩手県大船渡市赤崎町字外口

オフー 3, 4 貴舟神社





高 1 2 6 cm
横 7 5 cm
厚 2 9 cm

オ フ ー 3

丙申 海嘯と死亡の老若男女の相雪並

鳥沢弥五郎 上野キク 志田勇五郎 不二真
上野團三 同 クラ 同 清左エ門 諸中
同 苗 愛三 同 ロク 同 イヲ

葉沢源作 小沢ミイ 大沢タミ 外念佛
同 トマ 大沢サチ 熊沢倉蔵 世話人
同 ヒサ 同 六之丞 袖野久之助 志田ナヲ
志田清三郎 大沢トイ 同 タマ

明治二十三年ヨリ三十二年迄

高田町 磯貝ナツ
唐丹町 伊藤三千助
清水エキ 村川秀吉



高 1 3 7 cm
横 5 6 cm
厚 1 4 cm

オ フ ー 4

〇

明治二十九年五月五日

曹巽吸流信士 惠安妙心信女

與四郎 マツ

発心念観信士 善行修法信男

勘十郎 六之丞

普照人天信士 直聞得法信男

權之丞 三之助

直觀了到信士 吞空妙入信女

雲蔵 キリ

直指道入信士 應観善童女

林右エ門 クラ

観法了達信士 智覚清涼信士

勘六 長三郎

脱身了落信男 卯太郎

勝法通身信男 初吉

念佛講中

磯貝リヤウ

同 ハル

同 ナツ

同 タマ

大澤トイ

同 タマ

忠田卯太郎

臺 ウキ

熊谷シモ

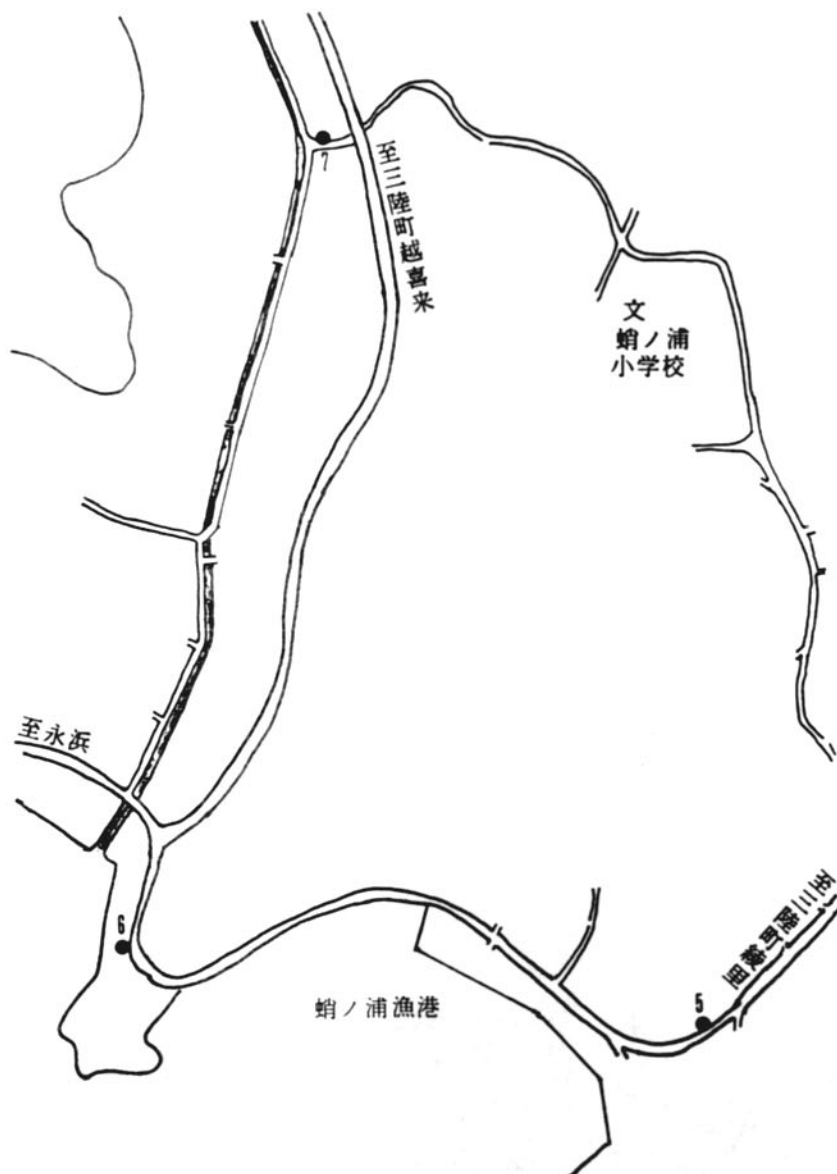
磯貝ハチ

岩手県大船渡市赤崎町字蛸ノ浦

オフー 5
ー 6
ー 7

新沼呉服店前
県道脇

字清水





高 103 cm
横 98 cm
厚 43 cm

オ フ ー 5

津 波 記 念 碑

地震があつたら津波の用心
津波が来たら高い所へ

昭和八年三月三日兩蛤浦部落 溺死者 三十二名
被害戸數 三十三戸



高 163 cm
横 57 cm
厚 36 cm

オ フ ー 6

丙 申 大 海 嘯 横 上 死 者 諸 君 葬 雪 並 墓 基

鎌田 ■ ■ ■ ■ ■
功徳生鳥澤りの

明治四十五年五月建之

高 1 5 5 cm
横 1 3 9 cm
厚 4 7 cm



津 波 記 念 碑

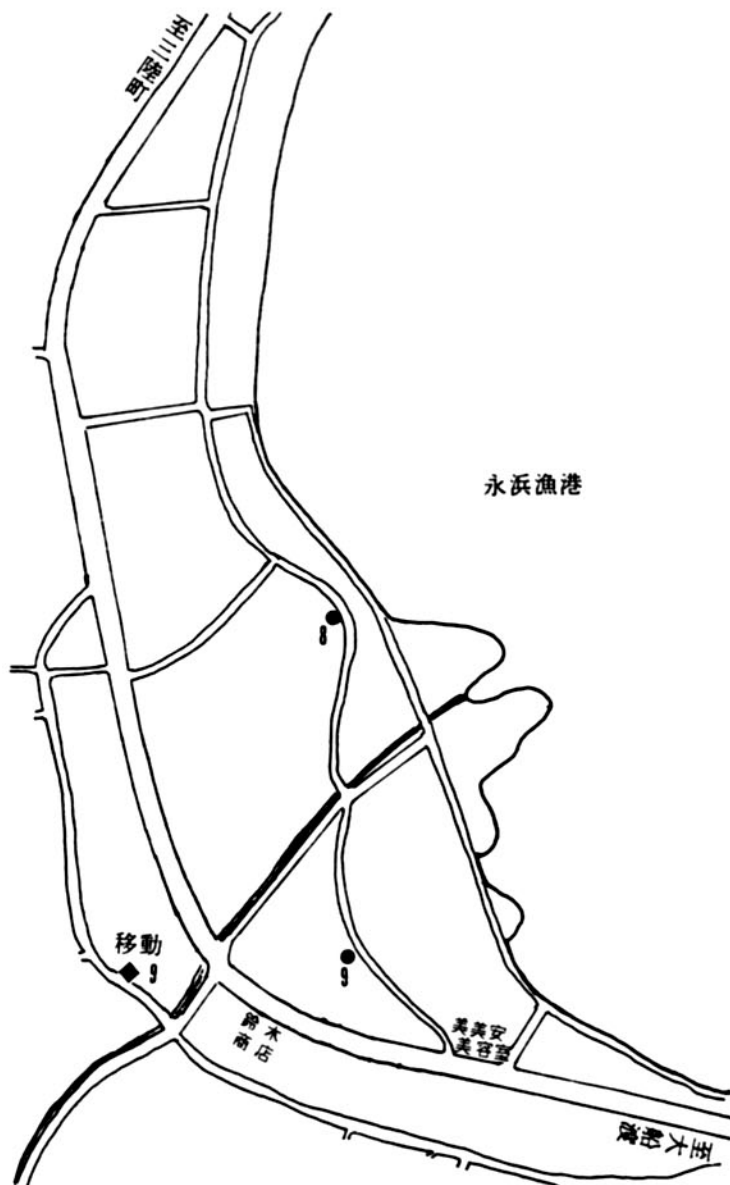
明治廿九年六月十五日清水部落 溺死者 三五名
被害戸數 一六戸

昭和八年三月三日清水部落 溺死者 一六名
被害戸數 二五戸

昭和十年三月建立 赤崎村

岩手県大船渡市赤崎町永浜

オフー 8, 9





高 152 cm
横 83 cm
厚 4 cm

オ フ ー 8

丙申海嘯横死長濱七拾四名供養塔

月輪善童子惠女孩女衆室喜念信女凜寒良風善男天
然孤月信土性海能人信士邊海妙得信女是散妙香信
女出身善童子悟庵了音信男海中妙集信女無染孩兒
春園善童子一宝妙華信女德法孩兒松吹善童子聖諦
童女夏月女孩女覺庵了性信士得戎妙脫信女

馬頭觀世立音菩薩 拾二頭 念佛講中

維持明治三十三年庚子年陰曆八月廿八日

鈴木未五良
志田モト
同 サイ
同 カメ
同 タミ



高 141 cm
横 107 cm
厚 22 cm

オ フ ー 9

津波記念碑

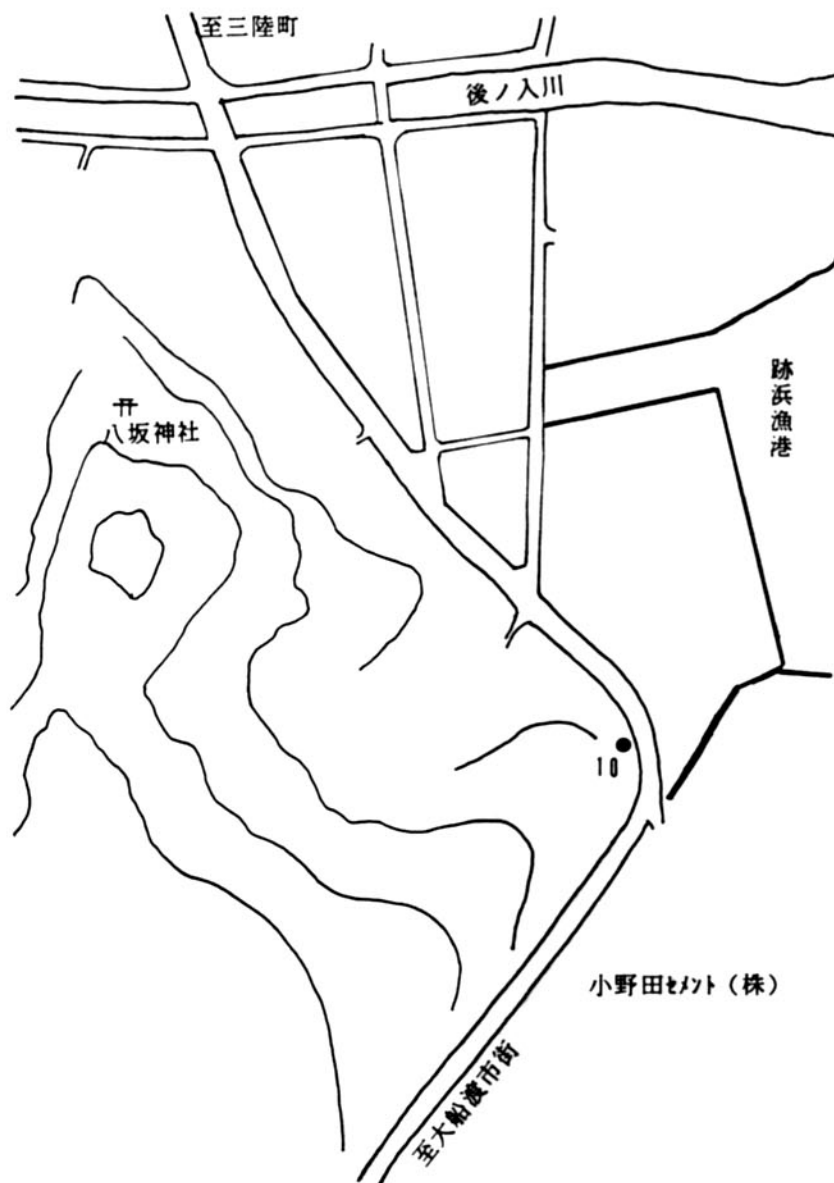
地震があつたら津波の用心

昭和八年三月三日永濱部落 溺死者 一〇名
被害戸數 四〇戸

昭和十年三月 建之

岩手県大船渡市赤崎町

オフー 1 0 字跡浜 県道脇
ー 1 1 字宿



高 3 2 5 cm
横 9 2 cm
厚 7 2 cm



津 波 記 念 碑

赤崎村の津波被害 溺死者 四五七名
明治廿九年六月十五日 被害戸数二二八戸
昭和八年三月三日 溺死者 八一名
被害戸数二二二戸

地震があつたら

津波の用心

津波が来たら

高い所へ

建設の由来

昭和八年の三陸津波に際し東京朝日新聞社に於て募集せる義捐金の各町村へ分配したる残額を記念碑建設費として寄贈せられたるに依り昭和十年三月當所永濱清水蛸浦合足の五ヶ所に記念碑を建設したり

田 鎖 清 書

赤 崎 村



未 確 認

組 合 有 志

海 嘯 横 死 者 供 養

念 佛 講 中

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山 | 口 | ■ | ■ |
| 田 | 畑 | 志 | 和 |
| 三 | 浦 | 大 | 三 |
| 舞 | 良 | ■ | ■ |
| 佐 | 藤 | 福 | 姿 |

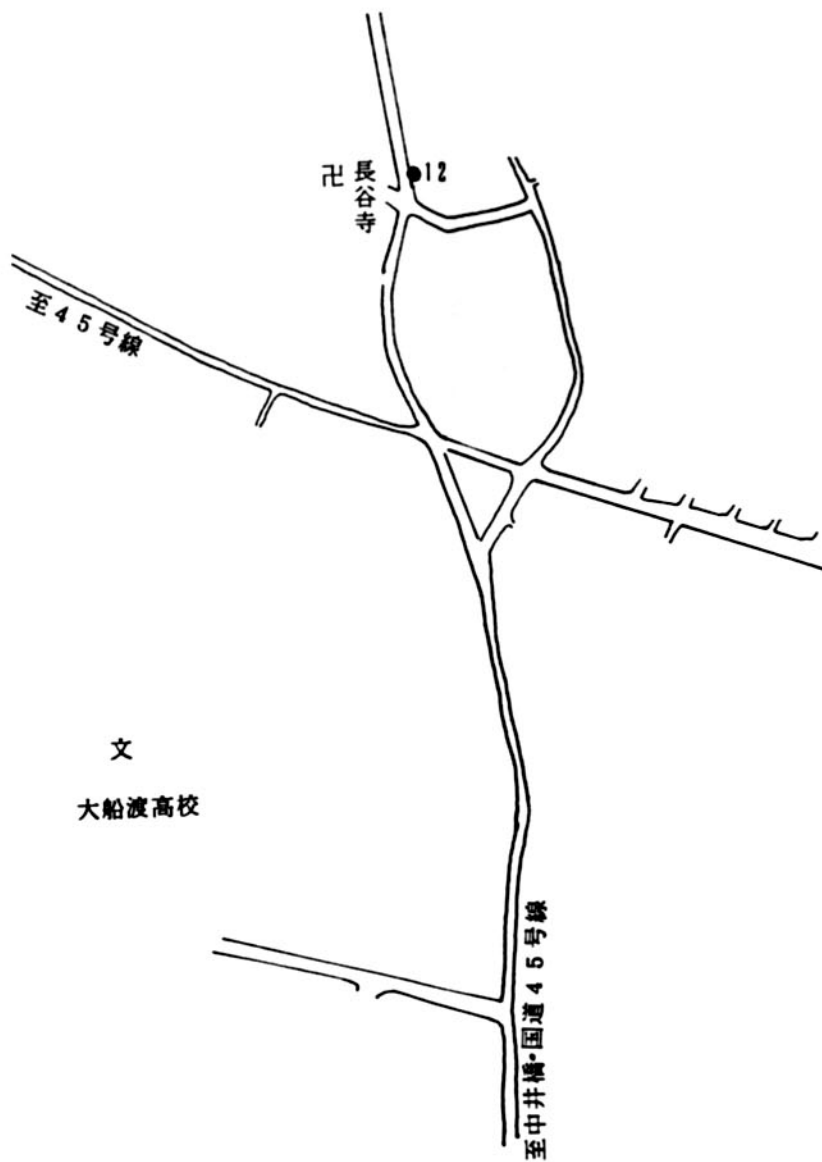
| | | | |
|---|---|---|---|
| ■ | ■ | ■ | ■ |
| ■ | ■ | 三 | 才 |
| ■ | ■ | ■ | ■ |

(大船渡市史 第五卷 教育・宗教信仰編 より)

岩手県大船渡市猪川町字長谷堂

オフー 1 2

長谷寺





高 184 cm
 横 85 cm
 厚 24 cm

オ フ ー 1 2

苗

人

靈

杖

東組若連

明治廿九年九月 政徳書 世話人

千葉金三郎
 金野栄作

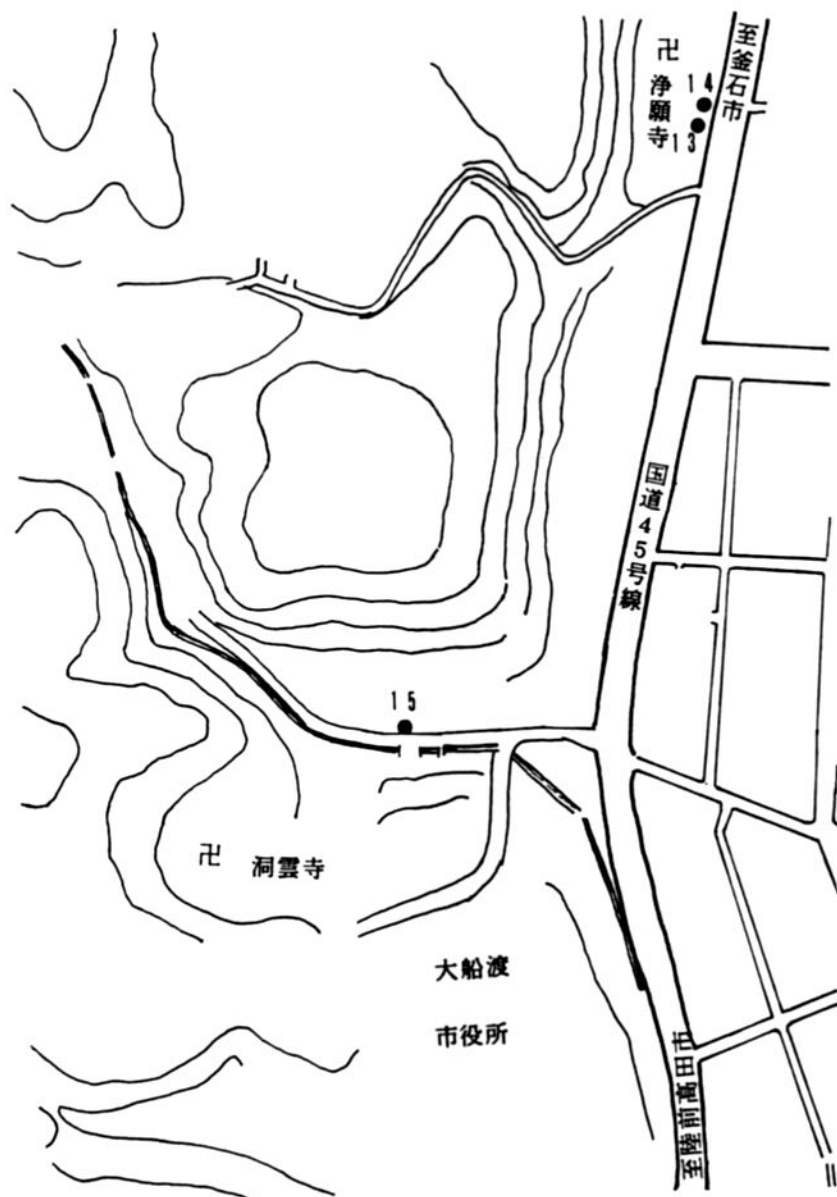
為海嘯死没者建之

施主

大畑しん
 鈴木つね
 千葉やな
 千葉あみ

岩手県大船渡市盛町

オフー 1 3, 1 4 字町 浄願寺
- 1 5 字宇津野沢 洞雲寺





高 146 cm
横 94 cm
厚 32 cm

オフー 13

南無阿弥陀佛



高 89 cm
横 45 cm
厚 22 cm

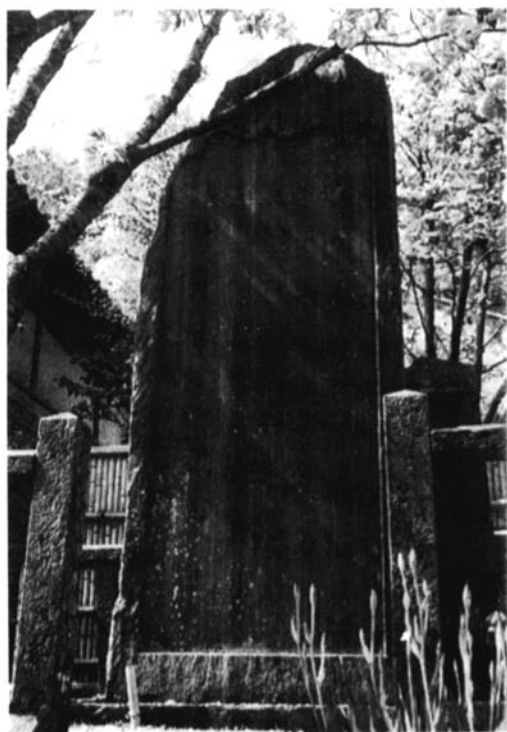
オフー 14

海嘯
紀念

榮徳了三信士
五雲良峯信士
西室妙見信女
實心妙應信女
妙永善童女

(文面消滅)

明治二十九年旧五月五日



オ フ ー 1 5

本
文
次
頁

大海

明治二十九年六月十五日といふ日は實に悲しく痛まれり忘れむとすとも忘れ難き日となりぬ其日は舊曆の菖蒲の節句に當れはとて津々浦々は親戚家族打集ひて祝ひ興しつゝありしを午後七時を過ぎし頃大砲の如き音聞江ければ怪しひて耳軟つる程こ曾あれ雨さへ曾々き暗き沖の方青く光りて泡なせる高潮の山より高きか打寄來り運るゝ暇もあらせず家屋船船なへて捲き盡し去り尔き其書を被りしは陸中の沿海瘡る隈なく南は陸前の國萩の濱より北は陸奥の國八戸の港まで七十餘里溺死者三萬に及ひぬ世の人これを三陸の大海嘯と曾言ひける中に就きて我若手縣は其被害最も甚しく其中にても本郡はことに重も甚しかりき潮の海面より高く騰れること百尺當に高山を結となし深谷を陵となし圖のみ八八あけ之れか為め沿岸十里十二町村の間流亡破壊せる家屋千七百三十餘戸溺死者もの五千六百七十餘人負傷せるもの五百五十餘人陳寡孤獨となれるもの百三十餘人全家死亡して相續者なきもの百十餘戸に及ひぬ累々たる屍の岡に横はれる中には乳児負へる母のみながら死に埋れたるあり腹潰れ腸の氣れ出たるあり破船潰瀝の山に打揚られ狼籍たる中八八負傷者の頤の皮剥かれたるか血に塗れて伏せるあり肉破れ骨碎けて動きも得ず擲り出されたるあり其慘状嘗ふるに物なかりき予當時本郡に長たり郡吏を擧げて狂奔するも猶足らず刺刺圖へ電線絶江た札は信を通するに由なし即ち町村長及有志者商賈を會して云ひけらく事急に起りて法規を正すに暇あらず先本郡被害なき町村の人々心を同うし力を協せて急に應じ然る後大に官に訴ふる所あらむのみ事の巧にして速きより八拙くとも速ならんこそ貴からめ其責は予自ら負はんとて各部署分擔の事を定めたり扱被害の區域廣く坂路多くして運輸交通の便よからず且時恰も養蠶採桑の盛節に際したれば人馬乏しく或は救済の時後れ死を見るか如きことあらむかを憂ひ衆を勵まし事を督して寝に就かさること十数日夜なりき 天恩優渥 兩陛下 皇太后陛下深く 宸襟を悩まし給ひ御教恤として金壹萬貳千圓を下し屬ひ特に東國侍從を遣はされ 勳を傳へしめ給ひしにそ被害の民悉く 天恩の辱きを拜し感泣せざるものなかりき政府は中央儲蓄金第二號備金等四十貳萬五千六百八十餘圓を出し猶官林拂下げを許して家屋船材の用に給せしめらる加之志士仁人の義捐せし金額四十四萬貳千八百八十餘圓衣服器具の數十五萬八千四十餘點の多きに達し遠近來りて弔意するもの絡綿として相連き主務官吏等は日夜相來往して事務を督勵し盡瘁に至るなきのみならず海陸軍及帝國大學赤十字社本支部東京特志看護婦會等は軍艦軍醫看護卒及看護婦を派して便宜を與へ本郡及傍近の醫師有志等は進みて經營の勞を取り小友大船渡赤崎の收容所に或は唐丹越喜來綾里盛等の病院に在りて療養せらざる所なかりしかは醫藥を得をして苦惱呻吟する傷病者なく厚く葬られざる死者なかりき夫れ此の如く官民心を一にして憂を分ち財を抛ち所謂生を養ひ死を哀しみ以て憐みながらしめしは偏爾明治 聖代の屬尔して予か被害の民と共に肝銘し永く誦るへからさるることこそある日當時の廣田村長として罹災者の為の授産世話掛たりし小松駒次郎ぬし予か家を音つれ今年七周年に當れは紀念に一大碑を建んことを思ひ立ち本郡長の賛同を得當時議を同うせし人々を始め貳拾貳町村長有志諸氏とも協議を遂げ水難救済會副總裁正二位勳一等鍋島侯爵に請ひ得たる新製同會長正四位勳六等功五級吉井伯爵より寄せられたる 阿彌狂ふ郡那ミの中館叫こ及今も聞ゆ果こち故楚須補といふ和歌をも彫り付けむとて予に文を

念碑

爾む文を屬するは學者の業なり予の能くすへきことにあらざればとて固く辭みつれと文の巧ならむことを欲せはこそ學者にも頼まめ兼よりさる心なし學者の文或は俗に讀み難く解し難ければ金石に彫りて建つとも其甲斐なむされは當時本郡に長として面のあたり事にも與り心尔も感せし儘を讀み易く解し易き體に綴りてよとてきかさされはとてうへなひつれといと、心も極き亂れてさなきたに拙き筆の端ますく、溢りて進まざるを如何にせん

前氣仙郡長正七位板垣政徳 撰文

明治三十五年六月十五日大日本帝國水難救済會副總裁正二位勳一等侯爵鍋島直大 橋野正精 書

名譽贊成

正二位勲一等侯爵 鍋島直大
 正四位伯爵 吉井幸藏
 岩手縣知事正五位 北條元利
 岩手縣書記官從五位 池永端
 正七位 郡司威忠
 正七位 原 恭
 從四位 牧 朴真
 正七位 板垣政徳
 正七位 三輪信一郎
 從七位 小野崎勇平
 從七位 勝俣元長
 正七位 北田親氏
 從六位 木村 榮
 從六位 塚越禮藏
 從七位 長谷川四郎
 正八位 加賀美安之助

寄附人名

氣仙郡盛町 大輪渡村 末崎村 小友村 廣田村 米崎村 高田村 氣仙村 矢作村 竹駒村 横田村 吉田米村 上有住村 下有住村 日頃市村 立根村 猪川村 赤崎村 綾里村 越喜來村 唐丹村 吉濱村 盛岡市板垣政徳 村井彌兵衛 佐藤清右衛門 中村治兵衛 菊池重三 京南宮敬次郎 京野幾三郎 真野幾三郎 盛岡市盛漁會社 菊池美尚 山吉喜一郎 小野崎勇平

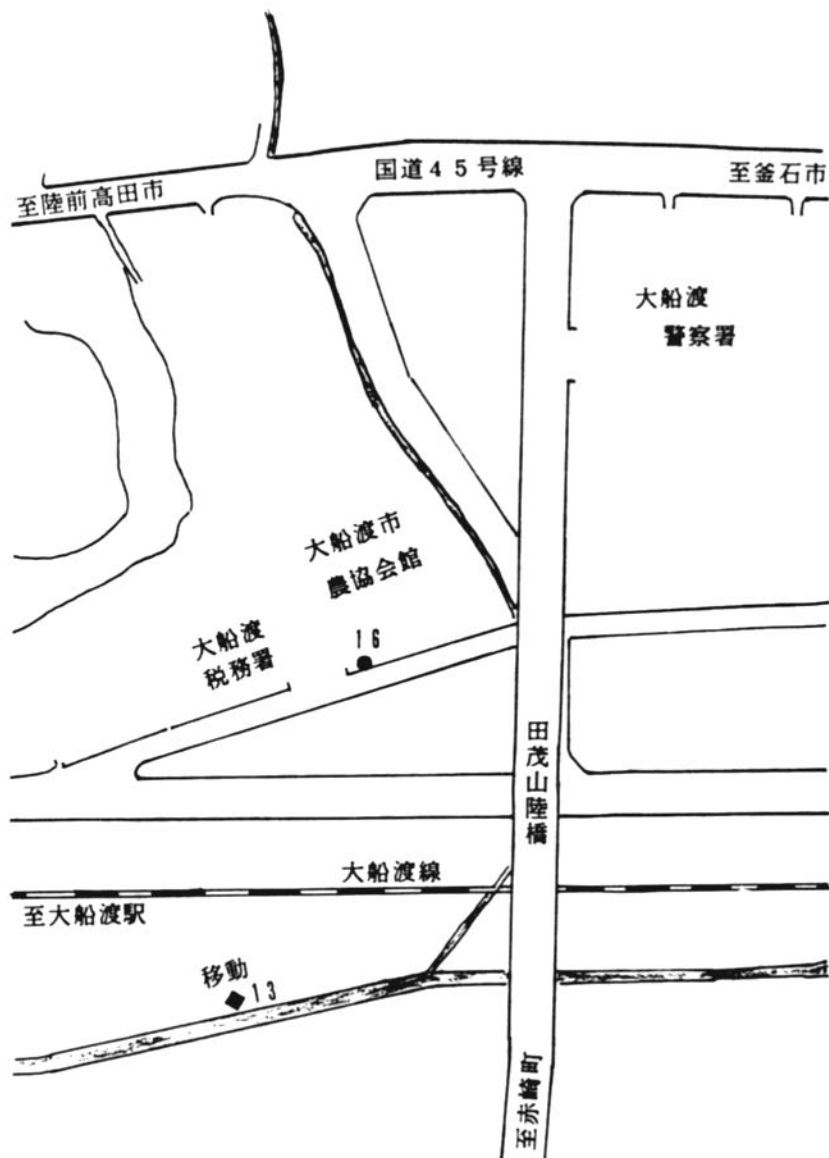
東京北海通商店 立根村千葉大門 猪川村鈴木龜一郎 猪川村千葉文五郎 盛岡市萩野謙三 中村秀俊 太田小二郎 鶴岡節郎 瀨川安五郎 佐藤正八 新渡戸仙岳 大矢馬太郎 小野慶蔵 上野廣成 一ノ倉買一 高橋嘉太郎 高橋長運 高橋金治 小林清治 秋田岡原正吉 小友村戸羽牛徳 豊釜町小松伊勢松 天野源之助 廣田村佐々木大三郎 鈴木忠助 米谷源之允 鈴木正治 小松佐兵衛 横田善三郎 白石廣造 味川磯助 高田町坂井平兵衛 沙田真實 白石廣造 大浦石次郎 竹駒村岩崎いく 世田米村興田平右衛門 菅野鶴吉 泉田健吉 小松駒次郎 小松駒次郎 同音三郎 米崎村龍田嘉右衛門 盛岡市 村田健吉 吉田亮助 仙臺市水野尚吉 大船渡村森田辰之助 及川忠五郎 末崎村高橋清三郎 井内 石 工見澤 吉五郎

横濱小幡熊次郎 堀釜町奥羽水産運輸(株)赤崎村金野源之通 戸田達三郎 岡野利兵衛 大谷嘉兵衛 安藤半七 阪小泉園松 米谷秀司 岩村徳治郎 石巻町龍丸本店 水産株式会社 佐藤春吉 津口安治 遠藤金兵衛 本吉郡常盤源五郎 平太郎 木村藤右衛門末崎村菅原源作 菅原梅吉 千葉清之助 鈴木幸太郎 千野余慶太 出羽清左衛門 鈴木徳彌 宮古金次郎 水野仁兵衛 高橋基兵衛 井上伊兵衛 高崎友七 相澤常吉 朝川伊助

東京日本橋區 初山半三郎 三久商會 高津伊兵衛 北海日通店 脇坂基兵衛 北谷仙之 高崎友七 相澤常吉 朝川伊助

岩手県大船渡市盛町

オフー16 字下館下 大船渡市農協会館



オプー 1 6



高 27.5 cm

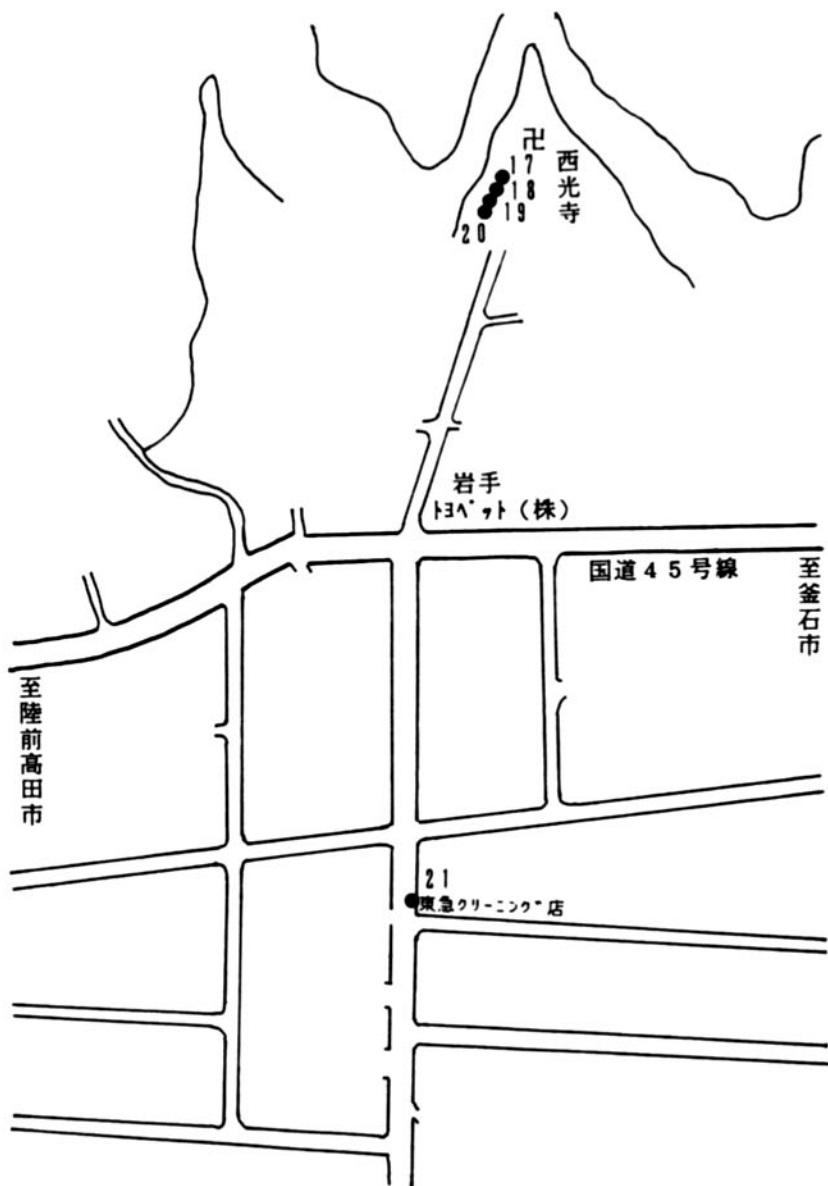
横 59.5 cm

昭和35年5月24日

チリ地震津波襲来地点
大船渡市

岩手県大船渡市大船渡町字富沢

オフー 17, 18, 19, 20 西光寺
ー 21 字地ノ森 東急クリーニング店前





高 177 cm
 横 47 cm
 厚 21 cm

オフー 17

○海嘯死者

願主 富澤鳳洲
 村内百二十余名
 無縁 七十余名
 大西平太郎
 碑

明治廿九年旧五月五日
 全三十年旧八月五日建之
 發起人 村内大衆中
 世話方 全有志者

高 2 5 9 cm
横 1 2 7 cm
厚 2 3 . 5 cm



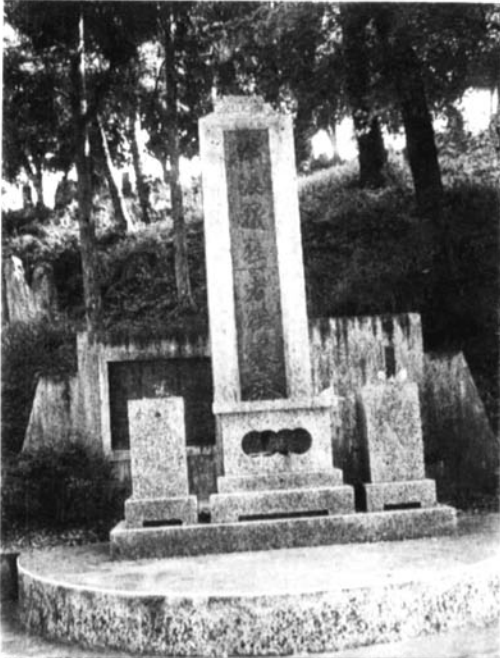
津波記念石碑

- 一、想起せ昭和八年三月三日
- 二、大地震の後には津波に注意せよ
- 三、三四十年来一度は津波が来るものと思へ
- 四、急に潮が引いたら警鐘ならせ
- 五、警鐘聞いたら高い所に

建設ノ由来

昭和八年三月三日ノ震囂災ニ當リ東京朝日新聞社が率先シテ義捐金ノ募集ヲ為シ罹災各町村ニ対シ巨額ノ義捐金ヲ寄贈セラレシガ今日更ニ亦記念碑建設費トシテ多額ノ金員ヲ寄贈セラレシヲ以テ茲ニ本社ノ趣旨ニヨリ碑ヲ建設シテ永久ニ之レヲ記念セントス

昭和九年三月三日建之



高 250 cm
横 62.5 cm
厚 6.4 cm

オファー 19

津波犠牲者供養塔



オファー 20

高 69 cm
横 88.5 cm

津波犠牲者の霊に捧げる

あなた方の死をむだにはいたしません
いつ どんな津波が襲って来ても それに打ち勝
つ十分な備えを持ち 総力を挙げて私たちの町を
守ります。
悲しい出来事が起った一年前のあの日から 海に
生き 海とともに伸びて行く私たちの町の新しい
建設は真剣に進められています。
どうぞ安らかに眠ってください。

昭和三十六年五月二十四日

大船渡市長 鈴木房之助



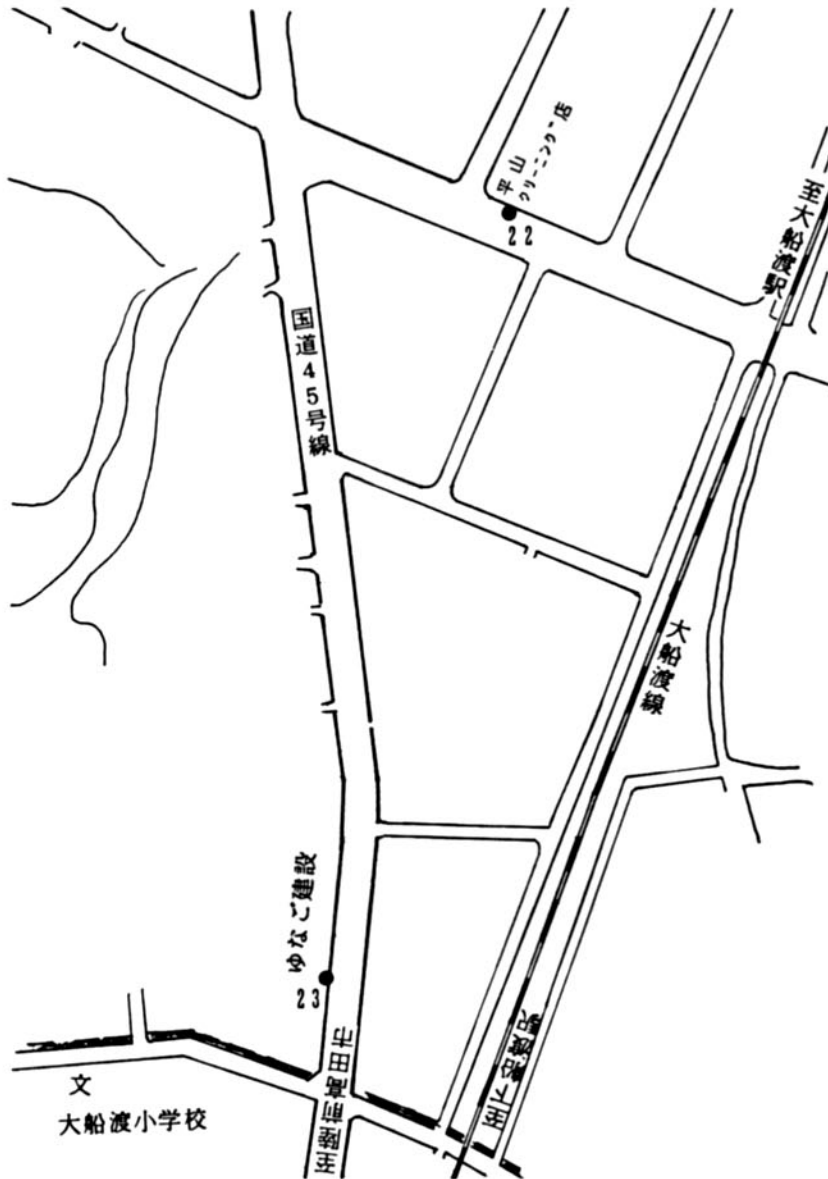
オフー 2 1

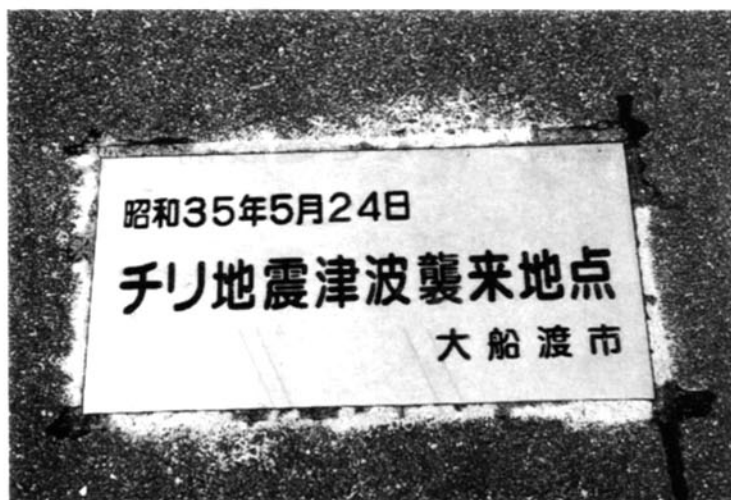
高 30.5 cm
横 60.5 cm

昭和35年5月24日
チリ地震津波到達地点
大船渡市

岩手県大船渡市大船渡町

オフー 2 2 字野々田 平山クリーニング店前
ー 2 3 字笹崎 ゆなご建設前





オフー 2 2

高 3 0 . 5 cm
横 6 0 . 5 cm

昭和 3 5 年 5 月 2 4 日
チリ地震津波襲来地点
大船渡市



オフー 2 3

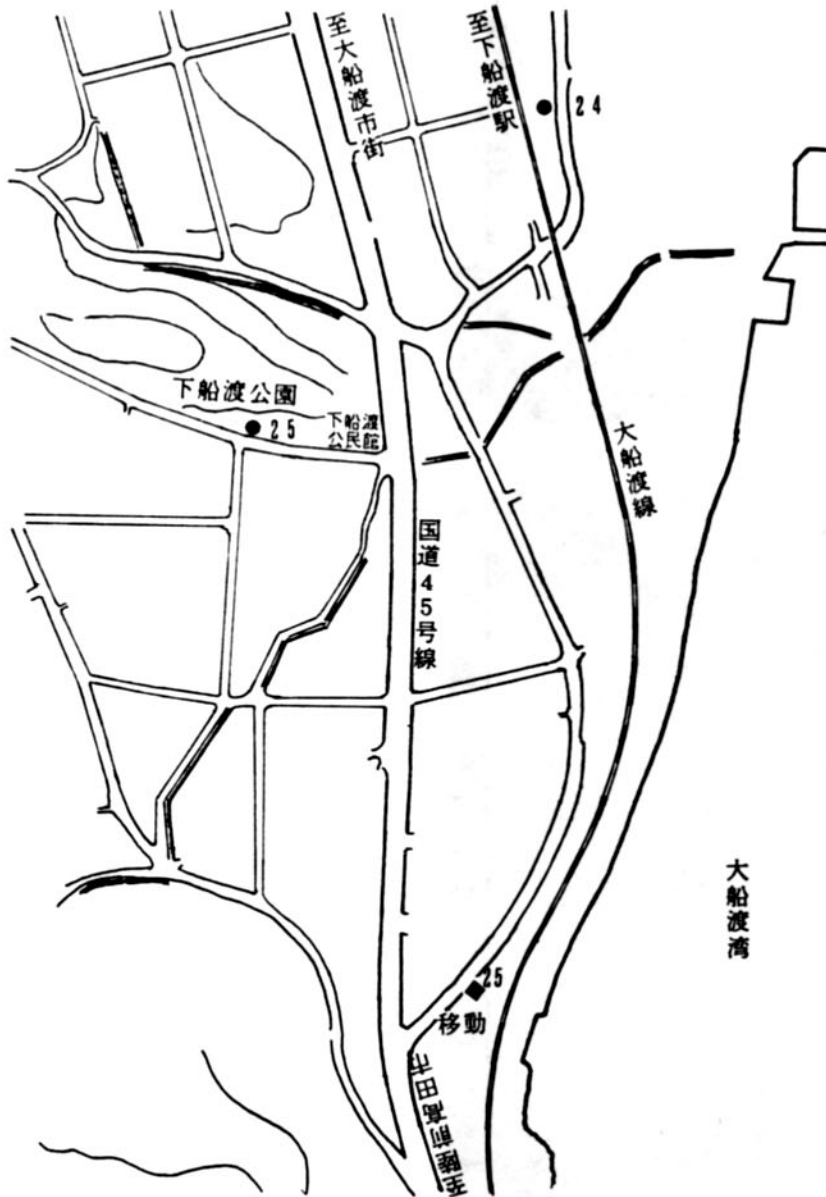
高 3 0 . 5 cm
横 6 0 . 5 cm

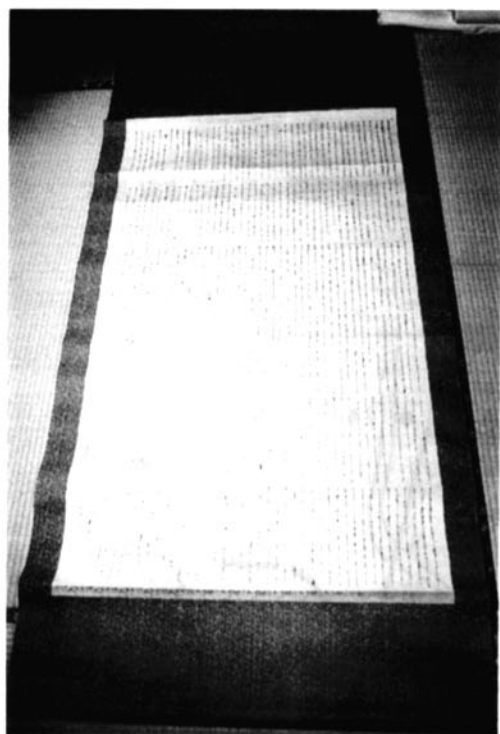
昭和 3 5 年 5 月 2 4 日
チリ地震津波到達地点
大船渡市

岩手県大船渡市大船渡町

オフー24 字宮ノ前 わかた商店
(上野和彦氏所有)

ー25 字下船渡 下船渡公民館脇





高 223 cm
横 97 cm

オフー 24

本文次頁



高 157 cm
横 97 cm
厚 35 cm

オフー 25

海嘯 厄死者 雪並

明治廿九年 施主念佛講中
陰曆五月五日

小西とめ
明治廿五年建立荒井とくゑ

中村ぬく

大和田みさほ

及川やをの

古話方契約中

三陸地方大津波ル掛死亡三万余人牛馬戌(夫) 猫尔至る迄追膳菩提の為書添怒(下)

時明治廿九年六月十五日旧曆五月五日午後八時半比三陸地方海岸凡百里余の間大津波ル掛老児男女の

有無なく三万余人牛馬戌猫尔至る迄流死死亡其惨状筆紙尔尽難く破書ル掛る衆中萬分一と

那し怒兼々高祖親鸞大聖人の示し給ふ如く此世者水の泡の如しとの真言今尔思ひ知ら蓮

多り三陸地方凡百里餘の間流死死亡三万余人牛馬戌猫尔至る迄目ふる間尔折角貯造し多累

金銀財寶家蔵納屋漁船尔至る迄押流し蕩屑となり跡に生残多る者負傷者多く

帰る遍キ家もなし糶の河原となり歎き悲免とも帰る遍キ事尔阿ら須食するに一粒の粟もなし朝夕の

飯尔モ飢苦しミ飢渴尔及只南無阿弥陀佛の外力なし掛る折可ら恐多く 天皇兩陸 より御救恤金(下脱力)

三陸地方津波の災に掛りたる趣憫然尔思召サレ岩手縣へ金壹万圓宮城縣へ金三千圓

青森縣へ金千圓下賜阿ら世恤助に充つ き旨右之縣へ御沙汰阿ら世ら連多利(へ脱力)

東國待從差遣東北地方大津波ル就ては 聖上には殊外宸襟を惱ませら連長くも破害地の

視察及御沙汰東國基愛氏尔下り同氏者十九日上野一番列車尔て宮城岩手兩縣に向け(へ脱力)

出祭今回乃災害なるや地震又者火災等と異なり被害乃場所も廣希れは其惨状も甚數

奈連婆一層綿密視察乃御命をも辱して又待從自身尔於成遍く人民の迷惑と(下)

奈ら左る様實實を旨として思らん掛尔て旅装し仔細に視察世ら連た連婆破害者者真(下)

歎慮に感泣世左累者なし龍田艦の派遣東北地方大津波の破害頗る大なるに依りて

海軍省尔ても十八日横須賀鎮守府司令長官に命令を與給ふる同時入港せる軍艦

(二六) 沿カ)

龍田號を派遣を命し多るヲ以翌十九日午前五時出帆萩の濱より鮫湊江至る沿岸巡航の途に就きたりし尔猶又軍艦和泉號も同航行したり板垣内相大津波視察として大坂より

帰京して廿二日午後二時三十分上野發列車尔て災害地尔向け出發せら連多り

緊急支出の御裁可岩手宮城青森三縣津波救災費は大蔵大臣の請求に依りて

黒田臨時總理書面ヲ以各大臣同意を求免て決定して左の金額を第二豫備金支出の

御裁可多り金四十五万二千六百圓三縣下臨時費追加支出御裁可岩手宮城青森

(二七) 運カ)

三縣下臨時費額同日左御裁可金貳万五千圓但三縣旅費通信軍糧備給等

救護軍醫の一統同東十字社より負傷者救護として數多の醫員を岩手縣被

害地派遣し多る加今同地唐丹町に在軍醫横川徳良氏より千駄木なる森軍醫の伝

(二八)

流氓満月涙六月薰風慘似秋

達し多る書信の端に一絶有り

(二九)

不北艱民圓一卷北時鄴監筆應扱

慘状視察記者三陸大災の日紙面

(三〇) 脱カ)

を載せて逸早く状屍野に塵キ状措キ同惻隱の情に訴し大津波の被害数は調査の進む 随ひ

追々増加して旧曆五月十日迄の調査に依連婆死亡貳万六千三百十余名●負傷千貳百四十

四名●流失家屋五千三十戸津波の為尔業を失ひ糊口に窮せる者七万余人其内

公けの救助を要する者三万餘人岩手宮城青森三縣ルテ旧曆十日迄の調査ヤ

氣仙郡一町十一村死亡六千六百八十人●家屋流失千五百六十戸●南閉伊郡二町十一村死亡九千百卅四人

家屋流失千六百六十四戸●負傷七百七十八人●東閉伊郡●死亡七千百廿七人●家屋

流失●千三十八戸●負傷三百八十二人●北閉伊郡●死亡千三拾七人家屋式百四十二戸

負傷十六人●南九戸郡一町二村死亡千百十八人●家屋式百四十二戸●負傷六十八人奈り

北九戸郡二村死亡百四十七人●家屋●八十戸余●負傷三十七人●大津波罹災者凡

(か脱力)

七万餘人飢渴に迫も交通の不便にして十分救護行届す依而縣廳ルテ箱館

より米五百石を買上汽船ルテ直尔運害地に輸送す其慘状思ふ遍し變災

本部者岩手縣氣仙郡に損害多し●釜石町全戸式千百五戸●人口六千五百二十九人

内流失死亡四千九百八十五人●流失家屋九百五十八戸●学校三棟警察署一棟流失致多り

唐丹町字本郷者全戸四百四十九戸●人口二千七百九十三人内流失家屋三百四十壹戸●死亡二千三百十五人

(ハシ漁力)

死牛馬六十一頭●破損又は流失の船二百三十一艘なり破害の前日浮鯊を営み居たる鯉船三艘ハ翌日

無事に帰り昨日と替り唐丹町も石河原となり入逼き家もなし親族朋友壹人もなし只管見る有様奈り

其船者三光丸桂川伊勢松所有金比羅丸稻荷丸者佐久間蔵太郎所有いつ連も危き大難を遭連たり

綾里村小石濱●小白濱ルテ全戸四百三十六戸●人口式千七百六十七人内流失二百八十五戸●死亡千四百五十八人

負傷六十三人●死牛馬六十一頭●流失船二百五十八艘奈り

廣田村字泊り全戸四百五十三戸●人口三千四百四十三人内流失家屋百六十三戸●死亡五百人負傷二十九人

死牛馬四十頭●流失船三百五十八艘奈り小友村全戸三百七十六戸●人口式千六百十七人●内流失家屋

七十六戸●死亡式百五十三人●負傷二十人●死牛馬二十二頭●流失船七十九艘奈り

末崎村流失家屋百九十一戸●死亡六百六人●負傷三十人●死牛馬百頭奈り 大船渡村流失家屋

百五戸●死亡八十五人●負傷三十五人●死牛馬十三頭奈り 釜石町より二里余海中尔三貫嶋に漂着

世し屍百五十余名有よし發見して救助中又石墮寺へ無名の屍漂着し流木の間尔集り幾百と言

數不計累々として丘をなす砂尔埋り首計り出して居も阿り又手足計り出して居も阿り肉ふくれ崩れ

居も阿り其異臭難堪依而遠野町花巻辺より人足を履へ屍方附るに鼻尔紙丸を押込動く様見る

も涙尔袖を絞り希り釜石町土蔵二個十町計津波尔引連壁落掛り破連有菊地氏川端清兵衛所有なりと

東赤十字社者釜石町小学校を仮病室として何百の負傷者を療養する地獄で仏と言者は奈らん

釜石を始免唐丹氣仙沼其外數ヶ所の仮病室を設救助致も其費尔も掛王らす御仁徳の悦幸感謝外奈し

又岩手宮城青森三縣の醫師方も無費尔て救助致されたるよし後世の醫師の鏡と名譽と那怒(ハハ)

唐丹町流失の跡へ大石を打掃置怒るよし是者津波の高式丈五尺と見止又大木尔掛多る藁屑ヲ以知る遍し

越喜來村字浦濱者全戸三百十二戸●人口二千三百九十一人●内流失家屋百十三戸●死亡四百十一人●負傷

五十九人●死牛馬百頭●流失船百五十三艘奈り 米崎村流失家屋十一戸●死亡十二人 負傷者

二人●死牛馬二頭なり 高田村氣仙村流失家屋三十五戸●死亡四百三拾四人●負傷十人奈利

吉濱村流失家屋三十三戸●死亡貳百十五人●負傷九人●死牛馬五十六頭なり

南閉伊郡久慈町 流失家屋百戸●死亡四百人●負傷二十八人なり 野田流失家屋九十七戸●死亡

貳百五十八人●負傷四十八人なり 野田 流失家屋小学校校役場巡査駐在所まで残す

(ニニ流カ)

侍濱 流失家屋五十戸●死亡百三人●負傷九人なり 北閉伊郡小本 中野 小城三ヶ村流失家屋

百三十戸●死亡三百六十七人なり 字大田 名部兩村ルテ流失家屋四十二戸生残多る者十一人なり

(ニニ)

大字田老全戸三百戸●人口千八百人●大字乙部 全戸百六十戸●人口九百人山間七十戸を余外悉皆

流失死亡千八百人前日沖合尔漁業尔出多る者者無事仁帰り見連婆石河原となり入廻き尔

家もなし妻子親族朋友もなし只管奈らんと悲免とも致方なし又木の根尔掛り辛くも命助り多る

者者負傷して居故高臺へ運び手當致も食するに一粒の粟もなし殊尔巡査学校教員

(ニニ吏カ)

まで死亡して屍累々として丘となし怒掛る處へ警察官吏の盡力ヲ以宮古町より食糧及

人足を雇へ一時救護をなし怒憐と言も餘り阿り怒

同重茂村 戸數五十五戸●人口貳百人悉皆流失して死体二名残有のミ 同字姉吉村 戸數十一戸人口六十名

(ニニ) (ニニ鶏カ)

悉皆流失生残る者二人有る而已 千鶴村 戸數十七戸●人口八十二名 悉皆流失石河原となり怒

同石濱村 流失家屋十七戸●人口六十四人 悉皆流失●同川代村 戸數十五戸 人口六十人 悉皆流失致希り

(ニニ鶏カ)

同磯鶴村 流失家屋百貳拾戸●死亡八十人 負傷四人なり

(ニニ差カ)

三戸郡鮫村大字濱辺通り 字白濱 深久保 大久喜 大字金沢 種濱 種善 七ヶ村ルテ納屋

六十九棟 ● 流失船 式百五十六艘 奈り 湊村大字濱通り 字白根 字濱須賀 階上五ヶ村

流失家屋四十六戸 ● 死亡二十七人 負傷四人 ● 死牛一頭 ● 流失船七十九艘 なり

(湊力)

青森県北部被害区惨状 城中 百石 三沢六ヶ所海岸 甚敷馬潤川口より小川沼口まで

(野力)

十余里の間 三川目 鹿中 淋代 細谷 市井沢 織笠 塩釜 砂森 雨ヶ森 二十余ヶ所流失

八十三戸 ● 死亡百三十二人 ● 死牛二頭也 宮城縣桃生郡荒村 船越 牡鹿 女川

鷲神 大原 谷川 階上 九ヶ村 流失家屋百五十戸 ● 死亡五百人 奈り 同雄勝村 流失家屋

百六十戸 流失致在者三十人 負傷多し 目も當ら 連怒有 椽奈り 志津川町一里半計 濱辺尔て

清水村 悉皆流失 死亡百三十人 ● 死馬四十頭 細浦家屋三十五戸 ● 死亡百十人 死馬三十二頭 奈り

屍累々として見るも 憐尔 涙尔 袖を怒らし 希り

(力)

救護員伊庭幾三郎氏者 十六日早朝 書生山口忠策を 隨ひ 繙幕を 施し 次て 同村地福寺を 救済

(力)

仮病室と定 免負傷者を 集合せしめ 菊田氏方より 同地途上 堅泥土の 原野尔して 所々に 破壊

の家屋と 大木の 流残り有のミ 漸々尔して 進むに 死屍累々として 山の如し 一步も 進む能はず 或ハ 破

潰の 屋根を 渡り 又牛馬の 屍を 踏ミ 漸々尔して 地福寺尔至り 見連婆 又門前尔屍骸を 以埋まれ

通行する 事能者す 依而 仮道を作りて 寺尔入夫を 準備の上 負傷者を 收容して 晝夜 救護に

従事シ 今十七日 込七十餘名を 治療せり 内二十四名を 仮病院に 收容し 輕症者 親族に 預ケ 多り

知事公も 巡回 負傷者を見舞 又赤十字社より 堀内 醫員 看護婦三名と 共に 來着致を れたり

十九日唐桑村に趣筈大谷村死亡三百二十五人負傷四十名又熊谷正太郎氏者自身縮帯耳

木綿を若干宛携へて破害地ル配布せり氣仙沼町観音寺を仮病院として十八日より開可れたり

(前力) (便力)

津波善後處分の使宜上縣廳出張所を氣仙沼町及志津川町へ臨時出張所を設ら連多り

(便力)

氣仙沼町者弁利宜數ル付負傷者多く意外に持込救護員不足を感じ師團醫員赤十字

(力)

社救護員と共に非常に精脈食を廢して治療に従事居連り

乃木騎兵及第二師團長者特別命令を發し遭難者救助負傷者護の爲氣仙沼町

より騎兵輜重兵を宮城岩手兩縣破害地へ分遣世し免多り

(吏力)

金華山其他海岸ル漂着する死骸多く寄多る可を聞へ縣廳者各部員警官郡長村史惣地

(不説)

派遣し昼夜の別なく之可收容中なり此外被害ケ所多しと雖も其慘狀尽難 □□□餘白なし其万分一

荒増を那し怒見給ル方々者察し給ふ遍し

南九戸郡野田村豪家に佐藤貞次と言へる人阿り遙の沖に巨砲の轟くが如き響を聞急き妻子雇人

二十餘人を拉して村内の高所なる海蔵院てふ寺院に駆け付るや一人の曲者阿り其跡に押込斧を以 簞笥の錠を

打破り衣服其外目保しき物を攫み去らんとする處 大津波押來りて家者微塵になり此惡漢は吾持多る斧

ルて頭を立割ら連鮮血淋漓として簞笥前ル倒連死せり掛る危急の中にも惡漢阿ると者恐逼き世の中なり

無政府氣仙郡にて大津波に掛り村役場四箇所にして諸帳簿類は一葉もなく吏員は十三名議員其數皆

死せり新町村の組織を見るは一年者無政府同様なるへく諸税の徴収も町村の會計何連も暗黒なり皆黄泉の客

となり戸籍もなく土地臺張もなく親族も相續人も有りやなしや土地所有權は誰に期するや將來の實地不分なり

大津波最中の出産北閉伊郡小本村にて三十二位の妊婦辛くも家を逃げ走る途中尔於て出産して其儘波尔

捲き去れ赤子のミ打揚ら連志お志おと啼て居る母親者蕩屑なり阿王連と言も餘り有り希り

青森縣三戸郡市川村尔て家族九人死亡 人を四個の棺に入て一列となし野辺の送りをなし怒是は親族生殘多る由へ棺尔入たり

宮城縣御岳村尔てハ多數の死者有尋常の事尔て者埋葬成難しとて大穴を堀一家ツ、を集七八人の家内ハ一ツ尔

埋免木を切りて唯の一家の墓と印を建置阿王れと言も其慘状察し給ふ遍し

豪膽の婦人宮城縣荒戸濱の一婦人阿り子供乳房をふくませ居多る處へ津波押し來り乳呑子を

捲去れるを取押へて激浪の中を泳き出し高台へ兎とも(子)を木に結附て置父母の見へ怒故又押返して

見連婆津波者引口尔なり幸と思ひ又引波尔乘り泳き我家尔行見連婆家者濱連て有希る故兩親

を聲を限り尔呼希連婆遠く細き聲の答阿り希る方を尋希るに隠板の下尔聲阿る故金剛力を

出して板を引放す内浪も引足となり兩親と五ツ尔なる女子と平目の如く砂尔埋り居希るを掘出し辛き

不審の命を助り五人相集り歎ひ涙尔呉一夜を明し多るよし

北九戸郡 八木 宿戸等より漁夫五十四名六艘の漁船に乗込み沖合に出て居るに浪上忽然として一條の黒

線北方より南の沿岸に突抜け同時尔張置多る網者はらはら尔飄盪し魚者悉く逸し去れり何寿類を

見合せて不審に思ひし尔翌日帰り來りて見連婆意外の凶變家もなく家族朋友もなし夢の如し

岩手縣氣仙郡唐丹村大字川目鈴木琢治氏者妻子始免下男三人下女式人都合八人喜し尔て

間口六間奥行十二間の住居して家代々醫業を致居旧曆五日夜八時半頃外より津波可来ましと知ら世尔驚下男三人を先尔達し二町計行て提灯の光り尔て透見連婆津波尔漁鱗者地上尔飛上り居る

海上をして行尔津波者次第尔引つる跡闇夜尔て向ふ者見へす只悲しミ啼助て呉連助て呉連の聲

を知る遍尔馬を早免て行見連婆老兒男女の啼さけ婦を見る忍す負傷者を下男の房尔

掛又背負世て鈴木氏の家尔運は世村内の者を呼集免多勢尔て戸板尔乘世て来るも

阿り又背負て来るも有鈴木氏者家内の友尔病者を書院廣間居間玄関の差別なく病室

となし丸裸身の者多希連婆簞筒長持の衣類者妻子供の左別なく着世希る内八十餘人の

負傷者となり置處もなくて臺所に板を張り隣家へ預ケ其上病室を新築し夫々手當すも

村内の者尔風とん(布団)を一枚ツ、出左世種大豆ヲ以豆腐を製し病者尔喰世危急を凌ぎ米穀申及す

貯蔵の賣穀始食春る者者困置遍し救護療法を造り此法尔違反春る者者彊銃ヲ以賞罪を

間と約し一村順番に婦人五人男五人宛 出し病者を救助致希る内疵口の縮蒂尔古湯方(浴衣)を裂き

用由る處多勢病者故盡女帯を裂き又紙を遣ひきり無據唐紙を者可世屏風を矧き盡四書

五經密書まで盡き其上病者雇人の飲食世し為貯蔵の米麦悉皆盡今者如何とも

致事不能氣仙の役場へ危急を報して米穀仰と雖とも應世す薬品の補給を致も不達

百餘名の者飢渴を救ふ道もなし困り入處へ米三俵を附て行馬阿りと知ら世尔より鈴木氏も彊銃を

持て馬子を驚世三俵の米を備り漸々尔して少しく安度致し希る然るに薬品盡病者の

悲しミ是より釜石町行調達可致と出張致し見るに是又目も當ら連 (ぬ脱力)
有様故田中鉄嶺山へ

行右の次第を申入候處早速尔訴知致し呉薬品并尔米十五俵を心能用達罷呉ら連其影ヲ以 (増力)

百餘名の飢渴を凌ぎ殊尔病者歎ひ生害の面目嶺山の隠徳是よりハなし漸々安度 (増力)

致す内唐丹村役場より米六俵を送り遣ス其内病者も追々全快し死亡者暨夫々吊へ致希り (用力)

我國未曾布の大災故邸宅を捨己可貯蔵の米穀書籍をな希打て八十餘名を救ひ臨機應 (曾力)

應變の救難療法を造り己れ強罵の汚名を負ふ沾も一意専心負傷者の為に計累

鈴木氏の命に随ひ秋豪も違す全村同意致處平常の心掛よろしき處也 (毫力)

品川子爵弔文を讀して痛く感歎し熱涙を押怒又拓殖 務次官國道君は感激 (事脱力)

の涙に呉連て即日金百圓を鈴木琢治氏に贈與世んと中央新聞尔托せられたり此鈴木

氏の議蹟後世醫師の鏡とも可仰名譽を那し怒餘白なき故困難致され多る万分之一を印

大石濱上野與惣治氏者数代の豪家尔して陰徳を施し貧家を恵ミ代々長命尔して (義力)

繁昌致し希る内現在の與惣治氏尔至り人多る職務者國益を立る尔志よつと考給ふて (に脱力)

明治九年 至り帆前艦を設十年の西南戰爭尔陸軍の御用を達賞ヲ賜り

引續き帆前艦を二艘新造し遠國取引致怒る内負債も多く出來怒る故 (般力)

三艘とも賣却なし負債も漸々形附安心の場尔至り今艘の大津波尔て親族朋友を (辛力)

失ひ悲ミの内尔も大石濱計大難を遭連其高運自力の及處尔阿ら須数代の陰徳

爰爾阿ら王れ又今般の津波爾掛り生命の衆中へ貯蔵の米穀を始免衣類并雜具爾至る

まで救助致し其上與惣治氏の所有の高臺の地所を流失衆中へ分配致遣し太る

よし萬代不朽の名譽也愚老も乍影承り歡涙を流し怒又上野氏親族方とも

深く交り多る衆中の亡靈且ハ津波爾掛り多る三萬餘人の死靈追勝菩提(ミ)の為

町村者困難爾掛り多る衆中の思ひ万分の一を慎て書添怒後世爾至り上野氏

代々の譲り証爾も可成 歎愚筆一軸爾那し送り怒長く保存を願ふのミ

東京麻布一ツ橋角廣尾町字 八良右衛門 新田開墾地主

神効腦臍臍丸開祖 青山八良右衛門 事

七十八史

明治三十二年

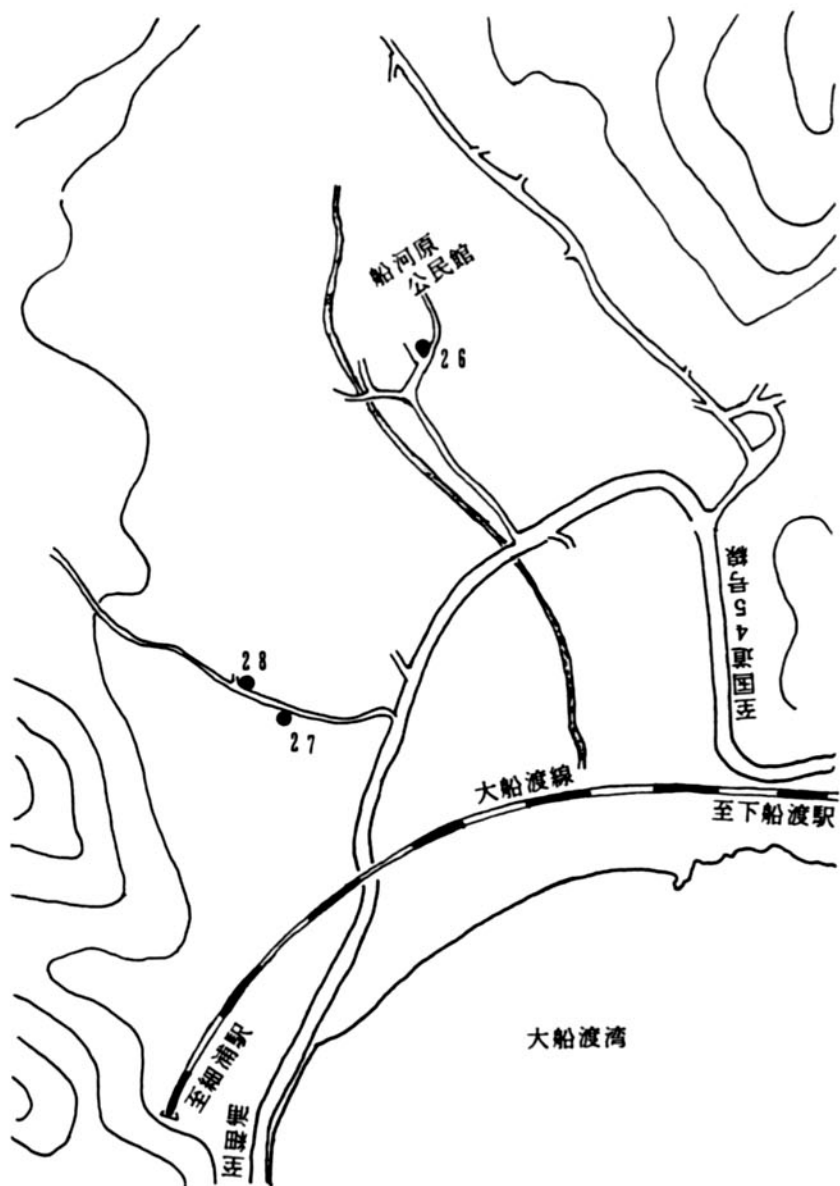
四月吉日

吉月 山竹眠慎書

上野與物心沁泊君江

岩手県大船渡市末崎町

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|------|--------------|
| オ | フ | ー | 2 | 6 | 字船河原 | 船河原公民館脇 |
| | | | ー | 2 | 7 | 字石浜 藤沢カツミ氏宅脇 |
| | | | ー | 2 | 8 | 熊谷昌之進氏宅前 |





高 96 cm
横 20 cm
厚 8 cm

オフー 26

明治廿九年六月海嘯襲来地点



高 9 3 cm
横 2 4 cm
厚 9 cm

オフー 2 7

昭和八年三月海嘯襲来地点



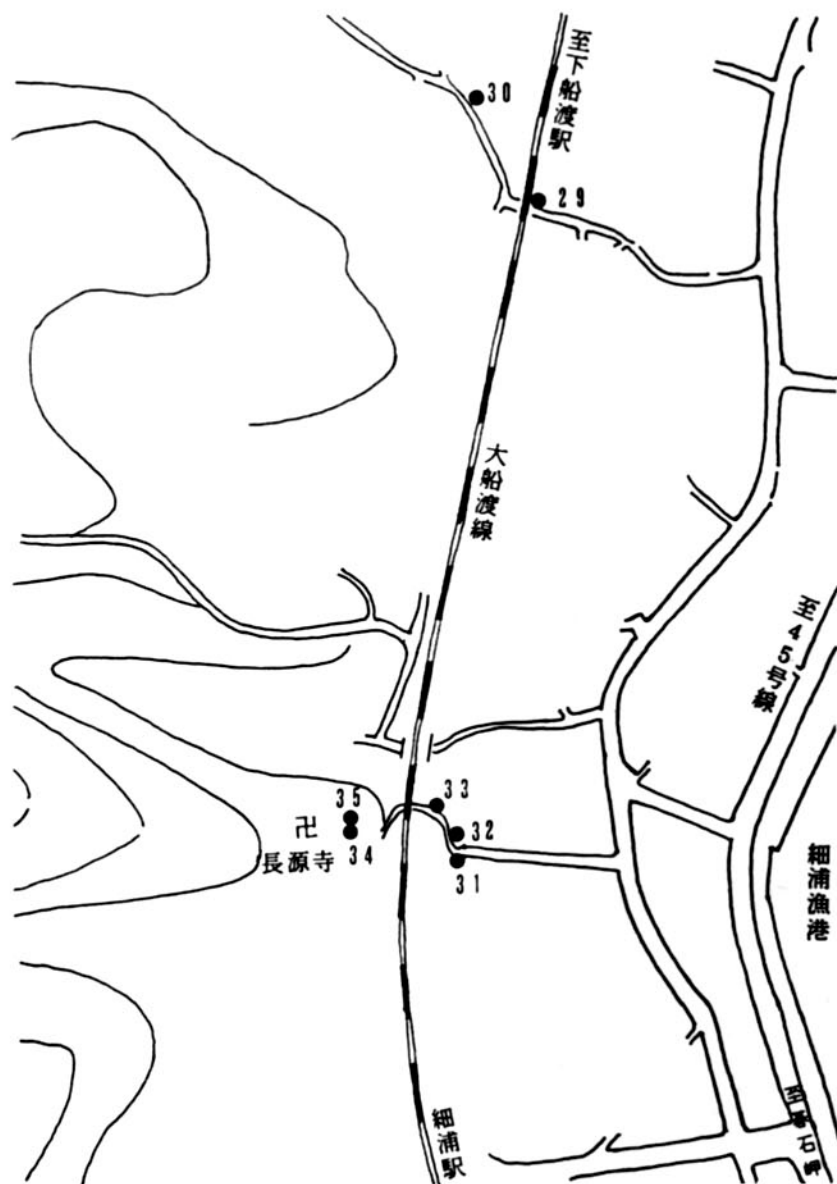
高 9 8 cm
横 2 3 cm
厚 9 cm

オフー 2 8

明治廿九年六月海嘯襲来地点

岩手県大船渡市末崎町

- オフー 29 字内田 近藤悦二氏宅線路脇
 - 30 岩脇達雄氏宅角
 字細浦 長源寺
 - 31, 32, 33, 34, 35





高 88 cm
横 23 cm
厚 7 cm

オプー 29

昭和八年三月海嘯襲來地点



高 100 cm
横 16 cm
厚 6 cm

オプー 30

明治廿九年六月海嘯襲來地点



高 79 cm
横 23 cm
厚 9 cm

オフー 3 1

昭和八年三月海嘯襲來地点



高 138 cm
横 67 cm
厚 40 cm

オフー 3 2

同 盟 會 員

吊

魂

小友村

明治卅年旧五月五日一周日忌建立
施主 同盟會衆中

オフー 3 3

明治廿八年六月海嘯襲來地点

(17)

高 98 cm
横 21 cm
厚 7 cm



オフー 3 4

海嘯溺死之靈

明治廿九年舊五月五日

泥舟逸人書

氣仙郡氣仙村

安倍直吉建

佐々木綱十郎

本村世話人 滝田栄助

紀室金蔵

佐々木三十郎

牡鹿郡石巻町世話人

佐藤喜八

同郡 同町 同族

小畑昌行拜刻

高 174 cm
横 71 cm
厚 11 cm





高 304 cm
横 125 cm
厚 20 cm

オ フ ー 3 5

津 浪 横 死 者 供 養 碑

以東京朝日新聞社指定義捐金建之

於西麓了莊 宮崎五陽書

本文次頁

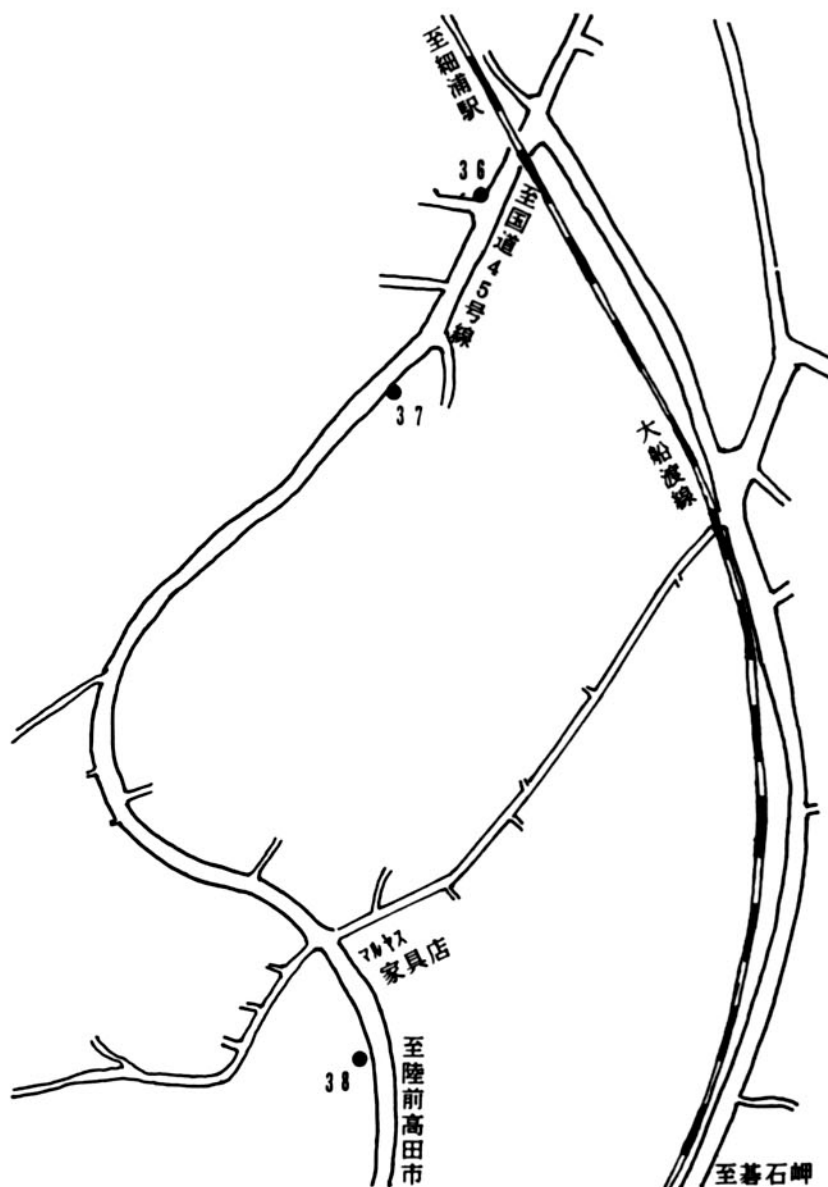
地震津浪

- 一、慶長十六年十月廿八日大津浪襲來
- 二、元和二年七月廿八日大津浪襲來
- 一、延寶五年三月十二日戌刻ヨリ地震同夜廿數度内戌刻寅刻強震其後昼夜數回ツ、十五日マデ續ク
- 一、安永三年五月三日大地震地割山崩
- 一、寛政五年正月七日巳刻大地震雨三度其後毎日數回四日ニ及ブ
- 一、安政三年七月廿三日四ツ過キ強震兩度直ニ津浪來襲爾後連日強震
- 一、明治廿九年六月十五日(陰曆五月節句)午後七時五十分海水異様ニ減退同八時七分轟雷ノ響ヲ續ケ大津浪襲來僅カ十八秒ニシテ本村現在戸數三百八十八戸ノ内被害家屋百七十八現在人口二千九百六十五人ノ内死者六百七十餘負傷二百餘内重傷百六ヲ算ス最大波高ハ碁石岬乱暴谷断崖上ニ石礫ヲ打上グ
- 一、明治三十年八月五日(陰曆七月七日)午前十時四十分小津浪來ル被害ナシ

- 一、昭和八年三月三日午前二時卅三分激震後一時海水著シク減退セリト見ルヤ同三時八分津浪襲來現在戸數五百六十四内流失全潰ヲ合セ百五十六半潰十八浸水廿九死者男廿三女十六負傷男女合セ廿六馬一豚三鶏五十八斃ル此ノ災害ノタメ衣食住ノ救護ヲ受ケタル者千九人建物ヲ除ク船舶漁具家財等ノ損害約廿万圓ニ昇ル最大波高切通附近満潮面上卅三尺
 - 一、明治廿九年昭和八年兩度ノ村内津浪襲來地点ハ村内廿八所ニ設置ノ津浪襲來地点標石ニ示ス
- 此ノ費用ハ東京朝日新聞社指定義捐金ニ依ル
 いつかまた襲ふ津浪を忘れずに
 海辺低きに住むな村人
 於こたるなまたた久襲ふ荒波の
 あたを思ひて避くる心を
 爲後世録之 末崎村長 山本周太郎識
 昭和十年三月三日
 石巻井内高橋運次郎刻

岩手県大船渡市末崎町

オフー 36 字中野 村上潤氏宅角小川の中
ー 37 村上長一氏宅角





高 1 2 3 cm
横 2 4 cm
厚 8 cm

オフー 3 6

昭和八年三月海嘯襲來地点



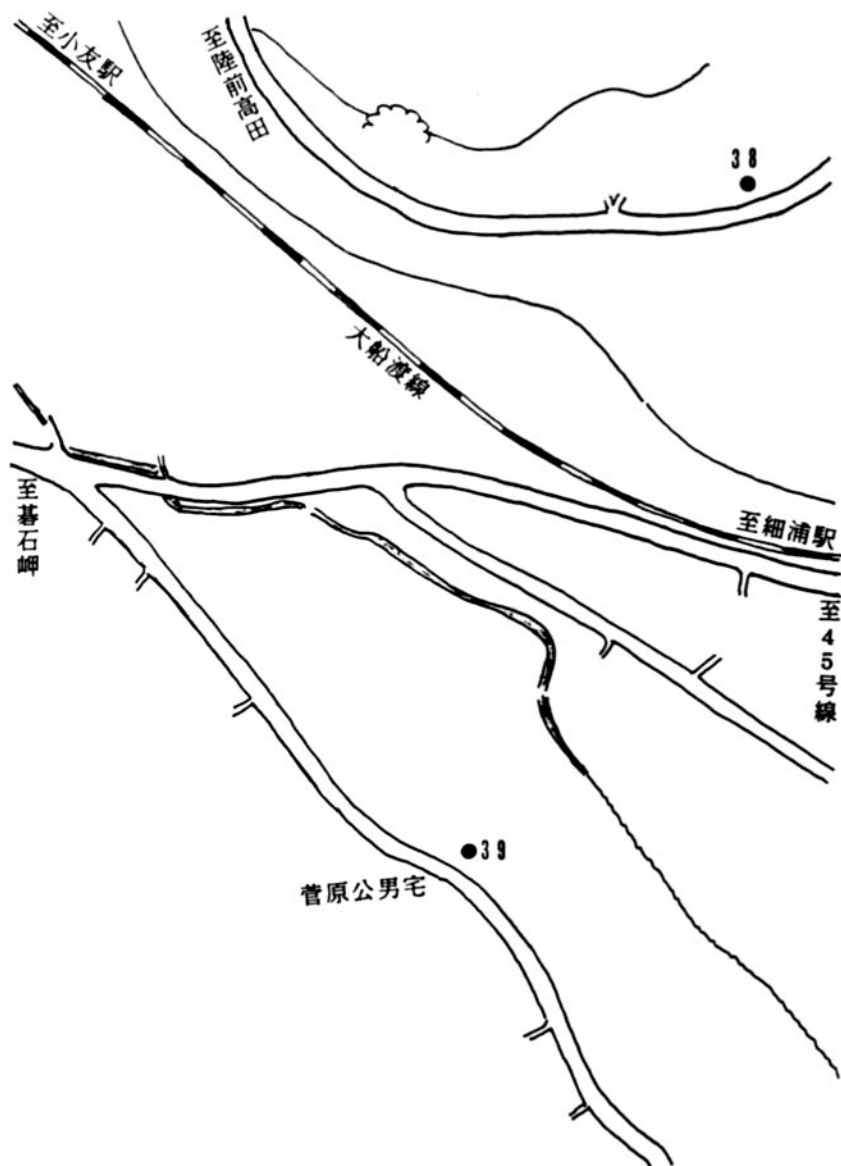
高 8 2 cm
横 2 2 cm
厚 7 cm

オフー 3 7

明治廿九年六月海嘯襲來地

岩手県大船渡市末崎町

オフー38 字小細浦 葛西邦雄氏宅横空地
ー39 字山岸 菅原公男氏宅前





高 184 cm
横 140 cm
厚 37 cm

オフー 38

本文次頁



高 49 cm
横 25 cm
厚 8 cm

オフー 39

明治廿九年六月

ふき出しそのあらなみの
者介しさを
お毛ひ出て毛
可しこむや介ふ

七十二翁美静

一 有 志
一 寡額歌碑文及

發起者

菅原春治

近藤常三郎

瀧田熊之助

新沼庄十郎

一金拾円

一 數地七坪

菅原春治
村上熊治

一金貳円五拾銭

一金貳円

一金貳円

一金貳円

一金貳円

瀧田喜右エ門
菊地長八
近藤 連
古座角助

世話方

瀧田貞助

新沼庄左エ門

菊地長八

志田福松

瀧田清次郎

近藤榮八

平埜友治

細浦衆中

盛村石工

鈴木軍治

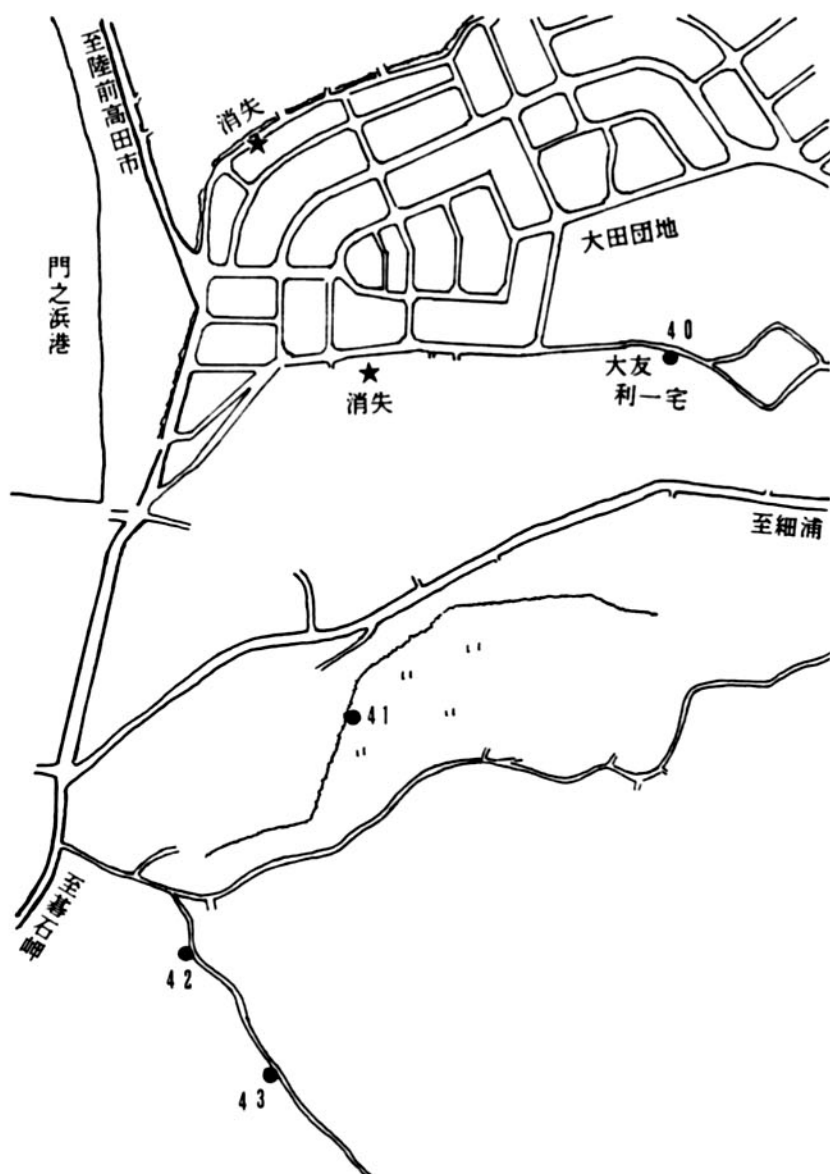
海 嘯 記 念 碑

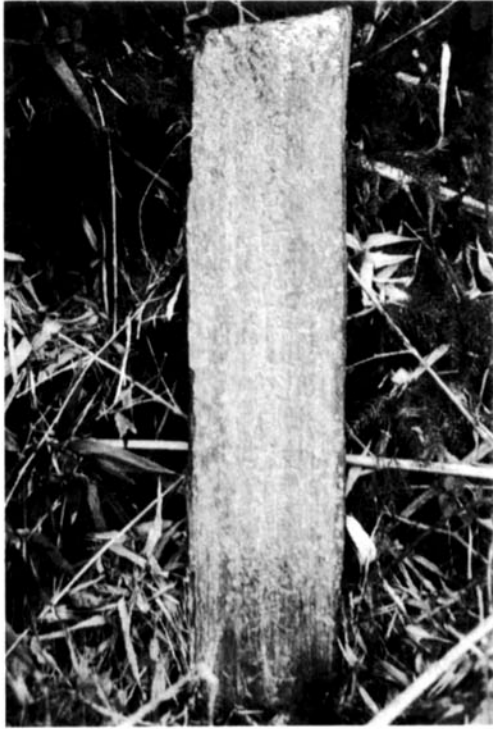
正三位子爵福羽美静題額并に詠歌
明治二十九年六月十五日午後八時天地俄爾闢く海嘯頓に起り其の響萬雷乃
一時に落つる歌如し此の時に方り壯者己に一身を處するに違あらず況むや
老幼をや須臾尔して逆巻く浪ハ空を衝いて去りしも此能瞬間に於て夫は妻
を喪ひ母は子と殉し樹木抜け家屋流れ浦頭忽ち荒況の野に化し月黒く風腥
く唯死者相枕藉して泥土能上に横はれるのミ斯くて之を計査寿れハ實に末
崎村に六百七十有餘人乃溺死と一百四十又餘戸乃流失とを示し更尔之が細
別に從へは大字細浦尔属する者溺死人員三百三十有餘にして流失戸數六十
又三なり吁悲慘此の如きこと乃復た世にあるへきか全村概ね鰥寡孤独無告
能民と曾なれりける是の故に我が至仁至慈なる
天皇 皇后陛下は痛く 大御心を惱まさせられ侍從東園基愛を遣はし
て之を吊慰せさせ給ひ且つ 御教恤として畏くも若干能恩賜あり窮民感
泣死骨尚ほ露へり尋いて天下の同胞は義捐を企て金圓は更なり衣服什器等
能寄贈寿留夥多奈りき今之を想ふに當時乃惨况歴々尚ほ眼に接春愁に發起
者諸氏は奔走盡力一の海嘯紀念碑を建設せむとし文を余に徴す乃ち行文を簡
尔從ひ一人は一人より多く斯能碑尔對し誦讀一過し易からむことを期す嗚
呼石冷かに露白し斯石聲奈きもあはれ數百精靈能寓寿留所百世の下一讀一
哭其能人蓋し幾千萬ならむ
明治三十五年六月十五日

陸軍教授 三浦 純雄 撰
宮城國學館長 鈴木貞治郎 書

岩手県大船渡市末崎町

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|------|----------|
| オ | フ | ー | 4 | 0 | 字鶴巻 | 大友利一氏宅脇 |
| | | | 4 | 1 | 字門之浜 | 村上キミヘ氏宅西 |
| | | | 4 | 2 | | 中島孝二氏宅前 |
| | | | 4 | 3 | | 山田利七氏宅前 |





高 81 cm
横 17 cm
厚 7 cm

オフー 40

明治廿九年六月海嘯襲來地点



高 100 cm
横 23 cm
厚 6 cm

オフー 41

明治廿九年六月海嘯襲來地点



高 1 2 3 cm
 横 2 5 cm
 厚 5 cm

オフー 4 2

昭和八年三月海嘯襲來地点



高 9 4 cm
 横 2 3 cm
 厚 8 cm

オフー 4 3

明治二十九年六月海嘯襲來地



高 114 cm
横 24 cm
厚 5 cm

オフー 4 4

昭和八年三月海嘯襲來地点



高 151 cm
横 30 cm
厚 18 cm

オフー 4 6

明治丙申
海嘯溺死

吊魂碑

昭和三年六月丁卯三日忌
末崎少年赤十字團建之

石材 寄附者 熊谷与惣右エ門
石工 盛町 古澤 清



高 202 cm
横 93 cm
厚 16 cm

海 嘯 記 念 碑

海嘯記念碑
 恐志幾大海嘯能我が三陸の海岸を襲ひし盤明治二十九年六月十五日舊
 曆五月五日の午後八時頃奈りき此日終日曇天午後盤殊尔濃霧深く小雨
 さへ交里夜盤月奈く陰闇能氣物凄き程奈り折し毛遠雷乃響につ連て怒
 濤澎湃すはと云ふ間毛何らせず萬雷地軸を挫以て我可村は數十尺の高
 浪尔浸さ連た里此日は恰も端午の節句且つ田植の頃とて他へ嫁勢る者
 毛歸り一家皆打揃う天あり此の危急の災害誰か盤免るべき親盤子を夫
 盤妻を助くる間奈く相率るて失勢ぬ浪盤僅かに五分は可里尔て却けは
 樹盤抜か連家盤流左連満目惨憺後數日海底に沈みし死骸累々として露
 は留既尔腐敗して性別のつかぬもあり見毛知らぬ他村の毛乃あり流失
 して影さへ留免ぬ毛ありかくて計ふ連は我可泊里の分溺死二百六十一
 各流失家屋五十七戸奈里阿、痛ましく毛恐し幾可奈天朝尔ては之を聞
 召さ連侍從東園基愛を遣はさ連各縣下にて盤皆義捐して教卸せら連き
 己れ當時歳廿六幸ひ尔毛此厄を免連たれは一盤精霊供養のため一盤
 この惨状を後尔傳へんため斯く盤石碑を建つる尔奈む

陸軍教授 竹林 貫一 撰
 山下 金蔵 書
 建碑者 熊谷與惣右衛門

高 131 cm
横 63 cm
厚 55 cm



津浪横死者慰霊塔

以東京朝日新聞社指定義捐金立之

宮崎五陽香炷書之

地震津浪

一、慶長十六年十月廿八日大津浪襲来一、元和二年七月廿八日大津浪襲来一、延寶五年三月十二日戌刻ヨリ地震同夜廿数度丙戌刻寅刻強震後チ十五日マデ度々震フ一、安永三年五月三日大地震地割山崩一、寛政五年正月七日巳刻大地震両三度後チ毎日数回ツツ四月ニ及ブ一、安政三年七月廿三日四ツ過キ強震兩度直ニ津浪襲来爾後連日強震一、明治廿九年六月十五日(陰曆五月節句)午後七時五十分海水異様に減退同八時七分轟雷ノ響ヲ續ケ大津浪襲来僅カ十八秒ヒンテ本村現在戸数三百八十八ノ内被害戸数百七十八現在人口二千九百六十五ノ内死者六百七十餘負傷二百餘内重傷百六ヲ算ス此ノ津浪ノ最大波高碁石岬乱暴谷断崖上ニ石礫ヲ打上ク一、明治卅年八月五日(陰曆七月七日)午前十時四十分小津浪来レ被害ナシ一、昭和八年三月三日午前二時廿二分激震後海水著シク減退セリト見ルヤ同三時八分津浪襲来現在戸数五百六十四内流亡全潰ヲ合セ百五十六戸半潰十八浸水廿九死者男廿三女十六負傷男女合セ廿六馬一豚三鶏五十八斃ル此ノ災害ニ衣食住ノ被救護者一千九人建物ヲ除ク船舶漁具家財等ノ損害廿萬圓ヲ超エ此ノ時ノ波高キリどうし断崖地帯満潮面上卅三尺一、明治廿九年昭和八年兩度ノ村内部落毎津浪襲来地点ハ要所設置ハ廿八個ノ標石ニ示ス此ノ費用ハ東京朝日新聞社指定義捐金ヲ以テ

以つ可また襲ふ津浪越忘

海辺低きに住む奈人々

お古多る■満た、く襲ふあらなみの

阿たを思ひて避くる心越

為後古録

昭和十年三月立之

末崎村長山本周太郎識



高 107 cm
横 24 cm
厚 6 cm

オフー 48

昭和八年三月海嘯襲來地点



高 98 cm
横 23 cm
厚 6 cm

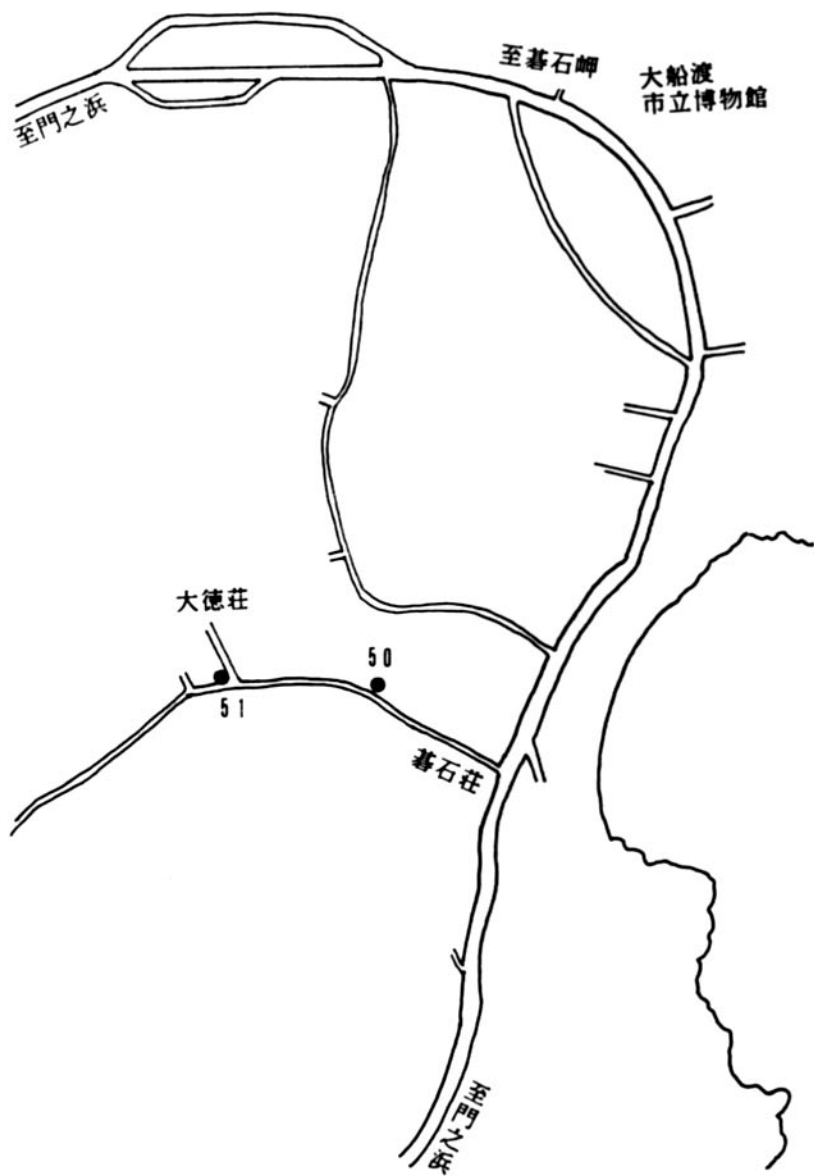
オフー 49

明治二十九年六月海嘯襲來地

岩手県大船渡市末崎町

オフー50 字大浜
ー51

民宿大徳荘前





高 1 2 0 cm
 横 3 0 cm
 厚 8 cm

オフー 5 0

昭和八年三月海嘯襲來地点



高 1 0 8 cm
 横 1 8 cm
 厚 8 cm

オフー 5 1

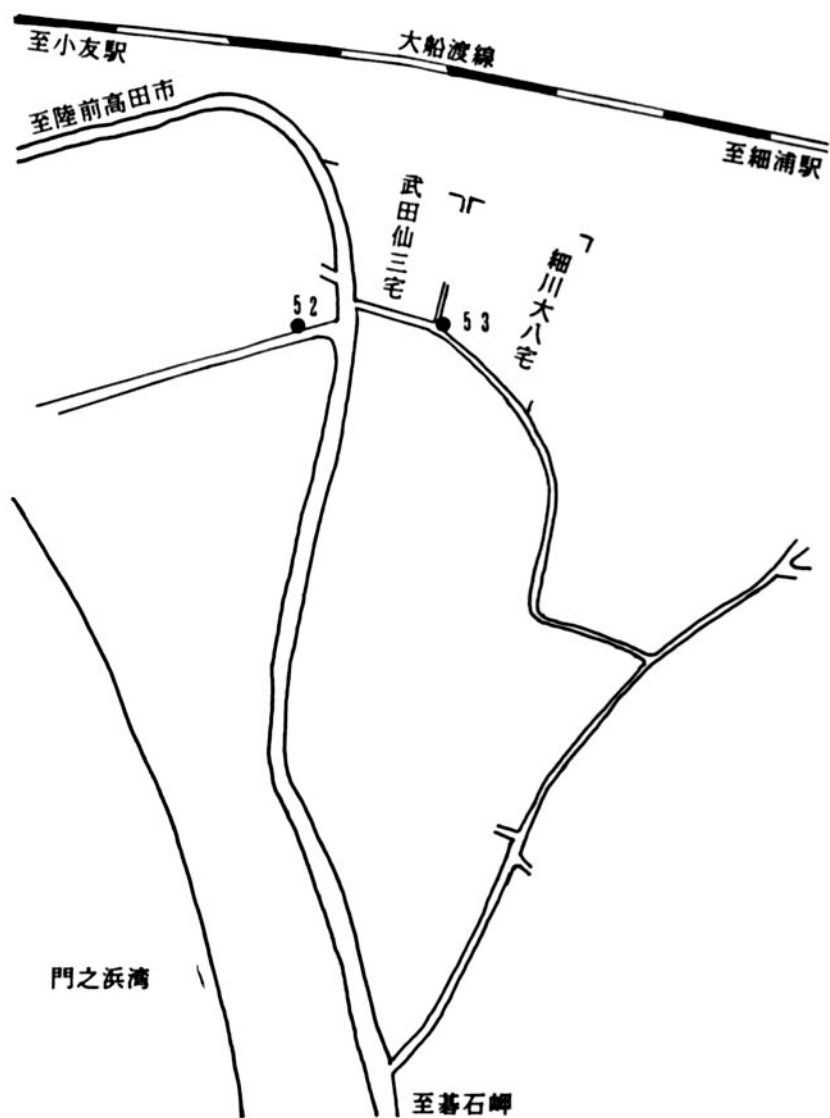
明治二十九年六月海嘯襲來地点

岩手県大船渡市末崎町

オフー 5 2 字高清水

ー 5 3

細川大八氏宅角





高 77 cm
横 22 cm
厚 7 cm

オフー 5 2

昭和八年三月海嘯襲來地



高 121 cm
横 23 cm
厚 9 cm

オフー 5 3

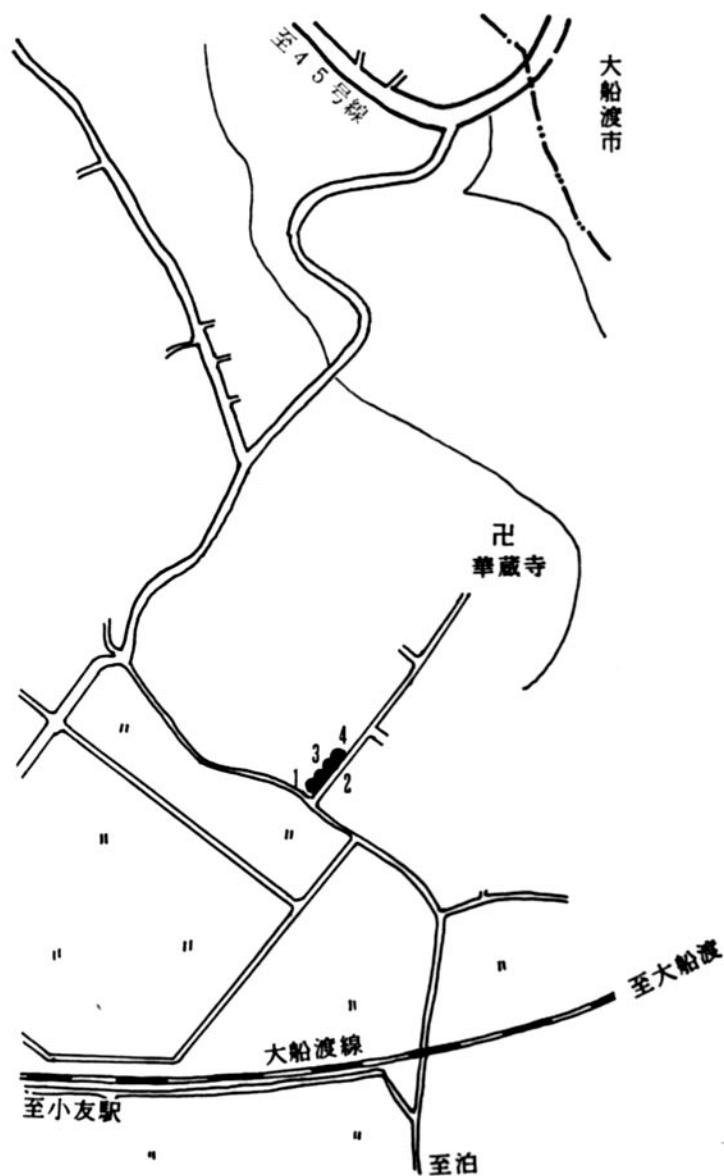
明治廿九年六月海嘯襲來地点

津波石碑分布図
(陸前高田地区)



岩手県陸前高田市小友町字門前

リク一 1, 2, 3, 4 華蔵寺





高 132 cm
横 40 cm
厚 40 cm

リク一 1

没
爾
供
養
塔

弘化四未暮夏十八日 発起

長十良
佐む

具の 乃及 千代 志よ 志よ 志よ 者満 とめ こま ふよ
志ふ 志も 志な 志の 者る まん ぶき



高 112 cm
横 69 cm
厚 43 cm

リク一 2

海
嘯
爾
死
供
養
塔

明治三十一年了大祥忌辰 建之

發願主

戸羽シナ 及川セン 佐々木ハ八 戸羽ヨシノ 村上ハナ 佐々木松五郎 戸羽千代松 世話人



古話人

佐藤治
村上寅治
青山助
補金

村上
佐藤
青山マツノ
同ウエノ
村上ヤス

弔
赤痢
海嘯
亡
雪並



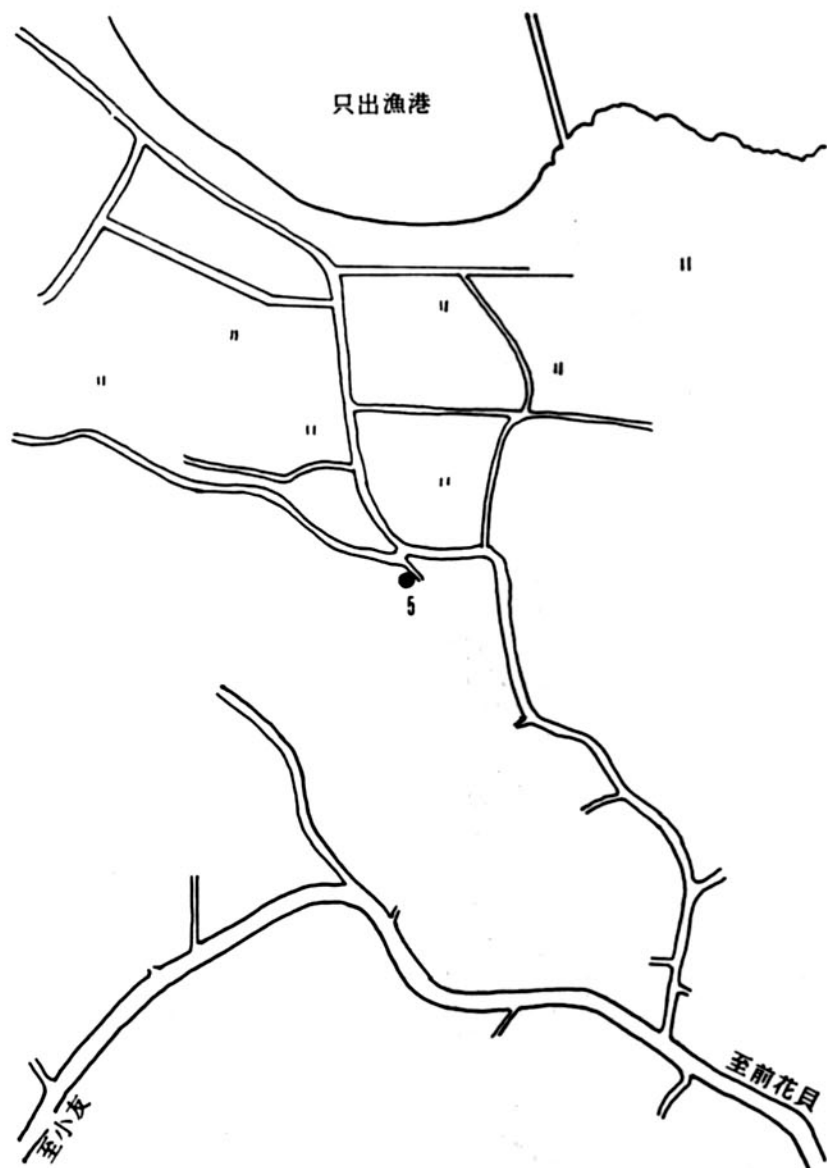
高 178 cm
横 99 cm
厚 37 cm

弔
海嘯
溺死
雪並
昭和八年三月三日旧二月八日
只出部落

岩手県陸前高田市広田町字長洞

リク ー 5

黄川田実氏宅前



高 212 cm
横 24 cm
厚 23.7 cm



地震があったら津浪の用心

それ津浪機敏に高所へ 廣田村

低いところに住家を建てるな

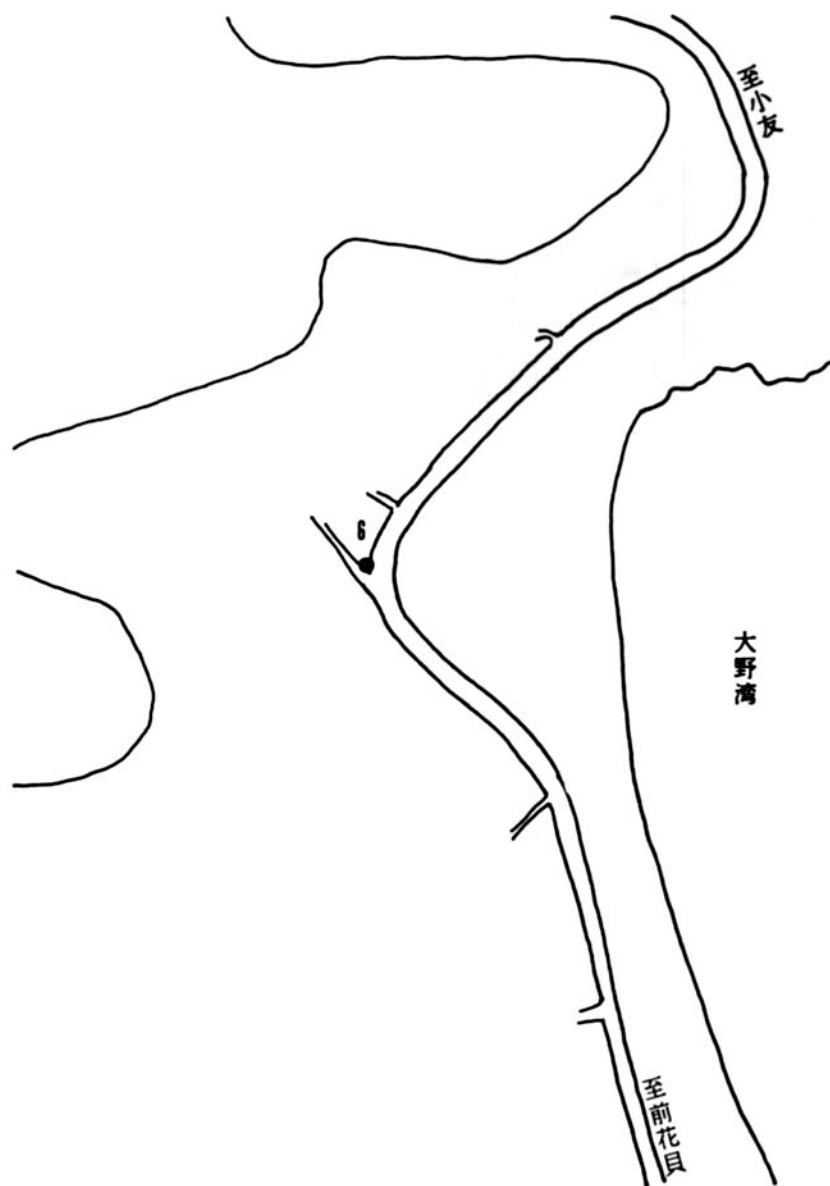
津浪と聞いたら欲捨て逃げろ

昭和九年三月三日 建之

岩手県陸前高田市広田町字後花貝

リク－6

小松ハルヨ氏宅前





高 2 1 2 cm
横 2 4 cm
厚 2 3 cm

地震があったら津浪の用心

それ津浪機敏に高所へ 廣田村

低いところに住家を建てるな

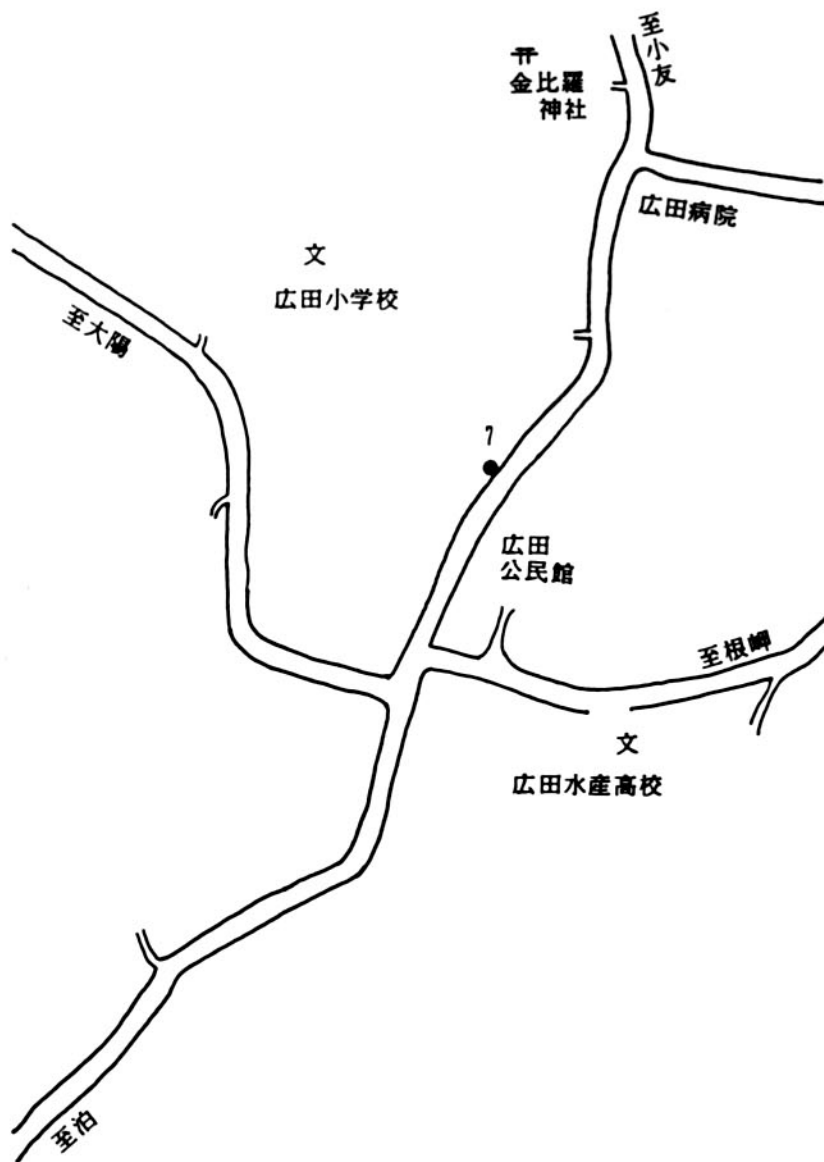
津浪と聞いたら欲捨て逃げろ

昭和九年三月三日 建之

岩手県陸前高田市広田町字大久保

リク ー 7

広田公民館前



津浪記念碑



高 275 cm
横 122 cm
厚 19 cm

明治廿九年六月十五日午後八時襲來
死亡者全村五五二名
流失戸数同一五七戸

- 一、大地震の後には津浪が来るよ
- 一、地震があったら高所へ集まれ
- 一、津浪と聞いたら欲捨て逃げろ
- 一、低いところに住家を建てるな

昭和八年三月三日午前三時襲來

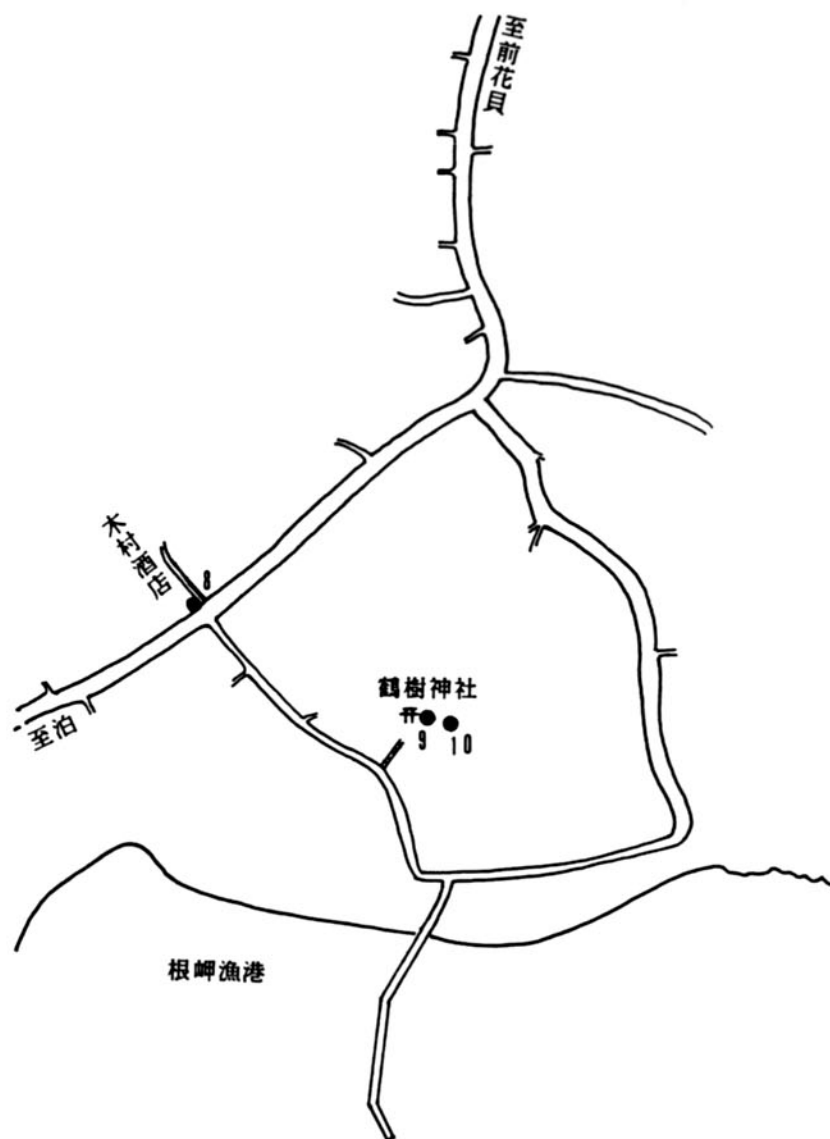
死亡者 全村四五名
流失戸数 同一二五戸
石巻市 石井敬三郎刻

幾度と繰り返される津浪能慘
害より脱礼むるため東京朝日新
聞全國讀者の御同情義捐金の
内で寄託者の要望により本碑
を建設す

昭和九年三月 建之 廣田村
外村内七箇所ニ建

岩手県陸前高田市広田町字根岬

リクー 8 木村酒店角
 - 9, 10 鶴樹神社





高 2 1 2 cm
 横 2 4 cm
 厚 2 3 cm

リク一 8

地震があったら津浪の用心
 それ津浪機敏に高所へ 廣田村
 低いところに住家を建てるな
 津浪と聞いたら欲捨て逃げろ
 昭和九年三月三日 建之



高 1 3 1 cm
 横 4 9 cm
 厚 3 4 cm

リク一 9

海嘯弱し死霊供養塔
 明治三十年二月彼岸日建之 発起者 鈴木ふく
 以下不詳 八名位

高 84.5 cm
横 52.5 cm



鹿
島
社
(板碑)

明治四■■■年日

明治貳拾九年以前之願主人名
堂之前講中人名
鈴木長五郎宛也

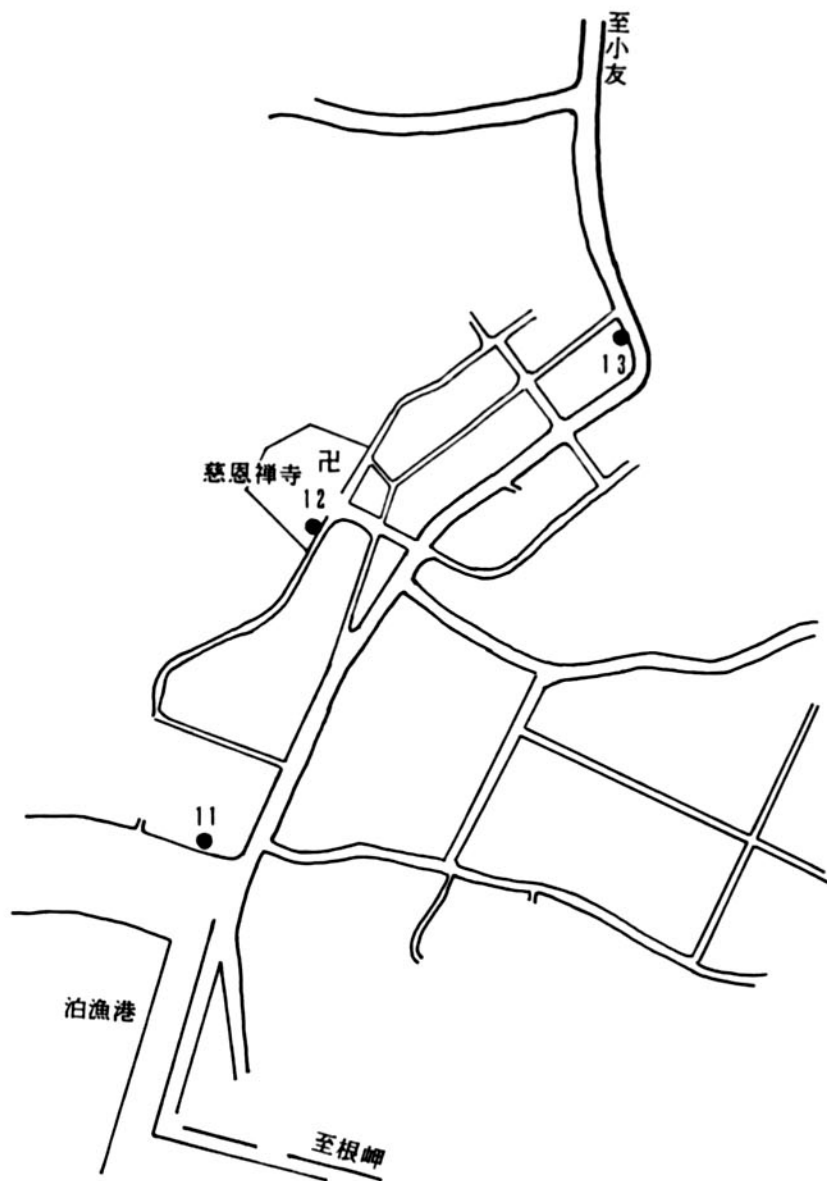
鈴木芳吉
高松龜助
鈴木權之丞
高松■治
高松初五郎
鈴木豊吉
鈴木雲松
鈴木万右エ門

氣仙郡廣田村字集里
修膳者 伊藤清治

岩手県陸前高田市広田町字泊

リク一 1 1
一 1 2
一 1 3

県道脇
慈恩禅寺
県道脇



高 1 9 5 cm
横 8 5 cm
厚 1 4 cm



佐佐 木大 三郎 翁頌 德碑

椿花潮に映する廣田港口萬里の怒濤を遮る防波堤を修築し百千の船舶舷を摩す良港たらしめたるはこれ何人ぞや元村長佐佐木大三郎翁其人なり翁は明治九年八月二日本町字泊の素封家丑之助氏の長男として生る幼名國之助後祖父を襲名して大三郎と稱す翁人となり温厚寡黙謹嚴進取の氣象に富み夙に志を水産振興に效し遠洋漁業の先覺者として令名業界に鳴る 又消防組頭 漁業組合長 廣田村長 縣警備組合長 其他幾多の公職に擧げられ尚水産學校を創立する等其功績村史に燦然たり就中昭和八年三月三日三陸大海嘯の慘禍悽慘を極め村民疲弊困憊其極にある時推されて村長となり之が復興に身を挺す時に石黒長官復興状況視察の為來村翁即ち時の村會議員漁業組合役員等と相諮り廣田港改修を陳情翌九年縣費支辯港に指定せられ縣營を以てこの大工事に着手遂に今日の良港を見るに至るこれ一に翁の高徳と卓見と莫大なる私財投入の賜にあらずして何だや昭和二十年十一月一日世を辭す享年七十五翁の生涯は實に至誠奉公の典型なり茲に町制施行の記念すべき秋碑を建て、其高徳を頌す

廣田町長 熊谷喜一郎 撰文
東山藤澤 菅原義男 題額併書

廣田港改修當時の

| | | | |
|------|--------|-------|--------|
| 村長 | 佐々木大三郎 | 漁業組合長 | 佐々木大三郎 |
| 助役 | 小松久右エ門 | 副組合長 | 大和田新之助 |
| 村會議員 | 鈴木泰右エ門 | 役員 | 小松駒次郎 |
| 同 | 吉田良次郎 | 同 | 木村忠治 |
| 同 | 大和田新之助 | 同 | 及川泰吉 |
| 同 | 畠山吉五郎 | 同 | 吉田良次郎 |
| 同 | 長野保兵衛 | 同 | 砂田完二 |
| 同 | 臼井小三郎 | 同 | 蒲生太三郎 |
| 同 | 吉田養治 | | |
| 同 | 村上初右エ門 | | |
| 同 | 伊藤福治 | 小友村 | 遠藤梅藏 錫 |
| 同 | 蒲生久雄 | | |

高 2 4 6 cm
横 1 0 5 cm
厚 4 4 cm



海 嘯

招

霊

碑

維明治廿九年歲次丙申に在り五月五日の海嘯は實今古未曾有の一大變災と謂う可きなり
其日煙雨あり海面々々として一陣の風なきに後八時の頃俄然海中に鳴動を起す滔天の怒
濤瞬息の間に無数の生靈を其渦中に捲き去る父母妻子忽にして生と別との百有余人田園
家屋忽にして破潰流失せし四十有余名嗚呼遭難者何因縁尔此悲
其魂を托するに由なく存者は其安す所人生寧ろ此の如きの慘事あらんや
夙に思ひしに哭し々々瘡に忘今人生寧ろ此の如きの慘事あらんや
同感の諸費淨財を蒐集し一碑を建立す一は幽冥し一は後代の紀念として設立する者也

明治三十一年巳戌仲秋八月彼岸日

高 2 1 2 cm
横 2 4 cm
厚 2 3 cm



地震があつたら津浪の用心

それ津浪機敏に高所へ 廣田村

低いところに住家を建てるな

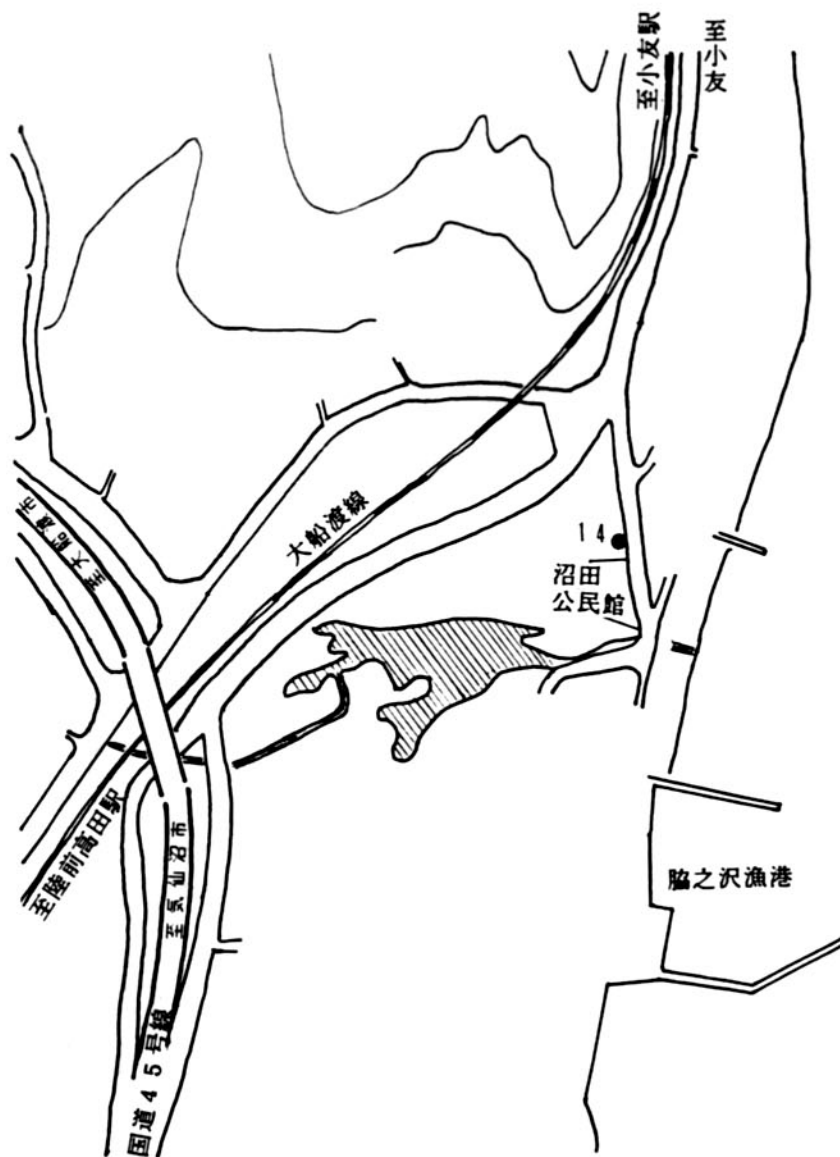
津浪と聞いたたら欲捨て逃げろ

昭和九年三月三日 建之

岩手県陸前高田市米崎町字沼田

リク－14

沼田公民館前



高 201 cm
横 89 cm
厚 19 cm



大津浪
記念碑

不意の地震に不断の覺悟
大津浪強い地震の後に來る
地震後引く潮津浪と思へ
津浪と思はばすばやく知らせよ
避難には慾得はなれて皆丘へ

- 一、明治廿九年六月十五日（旧五月五日）午後八時地震後
大津浪アリ村内倒壊家屋十八軒死者十一名負傷出八名
- 二、昭和八年三月三日（旧二月八日）午前二時頃大地震續イテ冲
ニ大音響アリ後干潮基シク全二時半頃大津浪襲來
倒壊家屋十二軒死者八名負傷者三名

東京朝日新聞社義捐金ニヨリ昭和十年三月三日建之

米崎村

岩手県陸前高田市気仙町字湊

リク ー 1 5

長部公民館近



高 282 cm
横 135 cm
厚 19 cm



津浪記念碑

- 一、不時の津浪に不断の用心
- 一、地震の後どんと鳴ったら津浪と思へ
- 一、地震の後潮が退いたら警鐘を打て
- 一、大津浪三四十年後に又来る
- 一、津浪来たなら直ぐ逃げろ
- 一、ものいのち
- 一、金品より生命

石巻市石井敬三郎刻

昭和八年三月三日午前二時三十分地震フコト約三分續テ海ニ爆音アリ後三十分許ニシテ激浪狂波地ヲ卷テ來リ本港部落亦殆ント全滅ノ災ニ罹リ倒潰家屋五十四戸死者三十二名傷者二十名ニ及ヒ死體旁午架棟狼籍風為メニ咽ヒ氣為メニ腥シ笑而シテ災後生存民ハ尚斯ノ地ヲ去ラス明治二十九年及遺般災厄當時ニ於ケル波浪ノ状況ニ鑑ミ工費二萬數千圓ヲ投シ五千五百坪ノ地區新ニ土ヲ盛ルコト高約九尺東南端ニ石堤ヲ築キ其ノ南側一帯ヲ緩衝地ニ充テ以テ網罫ノ計ヲ成シ以テ安住ノ地ヲ定ム焉是ノ碑ハ東京朝日新聞社ノ募集配贈ニ係ル義捐金ヲ以テ建設シタルモノニシテ要ハ遺般ノ難ヲ記念シ併セテ其ノ由ル所ヲ後人ニ諒ケンカ為メナリ

昭和九年三月

氣仙町長 河野俊覺 撰并書